

1 調査対象者の基本情報

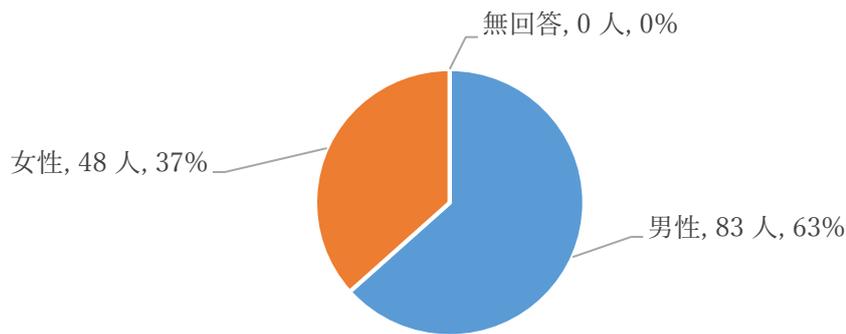
ここでは、支援の必要な子どもの状況（性別、年齢、障がいの状態、通園・通学状況等）を把握し、どのような方に回答していただいたか、調査対象者の基本情報を分析している。

1 性別、年齢

(1) 性別

回答者の性別については、図2-1-1「性別」のとおりであり、男性が、約63%（83人）、女性が約37%（48人）であった。

○ 図2-1-1「性別」



(2) 年齢

回答者の年齢については、図2-1-2「年齢」のとおりである。

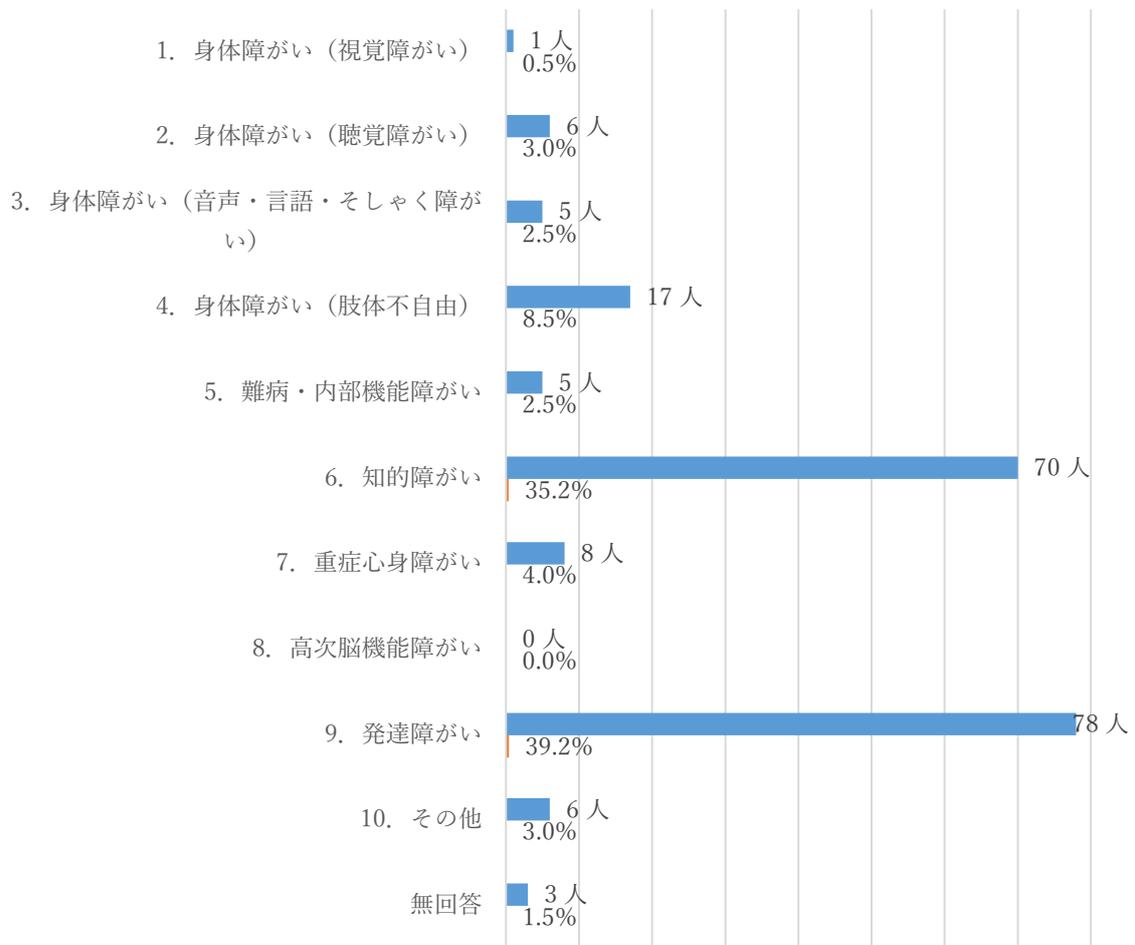
○ 図2-1-2「年齢」



2 障がいの状態

障がいの状態については、図2-2「障がいの状態」のとおりである。全体では「発達障がい」の回答が最も多い39.2%（78人）の結果であった。

図2-2 「障がいの状態」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

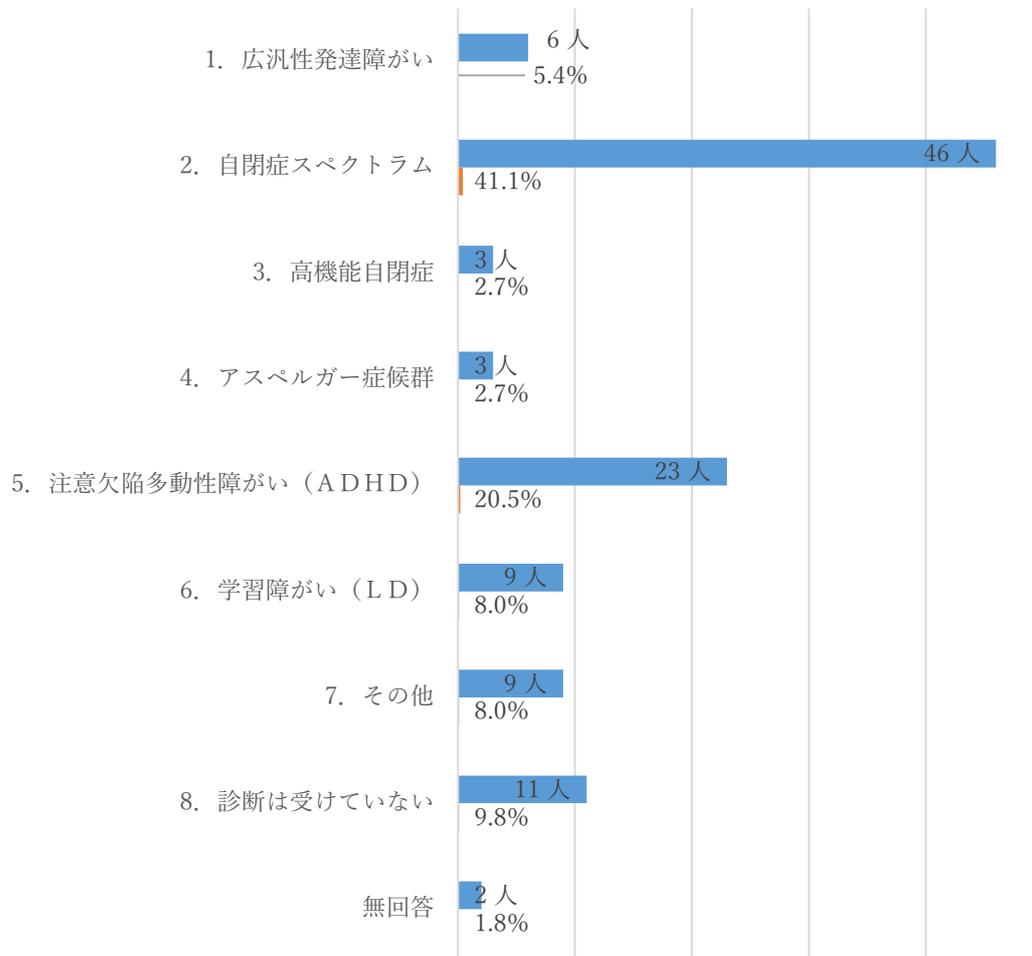
	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
しかくしょう 視覚障がい	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	0	0
ちようかくしょう 聴覚障がい	1	3.6%	4	2.9%	0	0.0%	1	0
おんせい げんご 音声・言語・そしゃく障 がい	0	0.0%	2	1.4%	1	11.1%	2	0
したいふじゆう 肢体不自由	1	3.6%	11	7.9%	2	22.2%	3	0
なんびょう ないぶきのうしょう 難病・内部機能障がい	0	0.0%	3	2.2%	0	0.0%	2	0
ちてきしょう 知的障がい	7	25.0%	56	40.3%	2	22.2%	4	1
じゅうしんしんしょう 重症心身障がい	0	0.0%	6	4.3%	1	11.1%	1	0
こうじのうまきのうしょう 高次脳機能障がい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
はったつしょう 発達障がい	13	46.4%	55	39.6%	3	33.3%	7	0
その他	5	17.9%	1	0.7%	0	0.0%	0	2
みかいとう 無回答	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ごうけい 合計	28	100.0%	139	100.0%	9	100.0%	20	3

未就学児においては、「発達障がい」46.4% (13人)、「知的障がい」25.0% (7人)、「肢体不自由」3.6% (1人)、就学児においては、「発達障がい」39.6% (55人)、「知的障がい」40.3% (56人)、「肢体不自由」7.9% (11人) という回答結果であり、比較すると就学児では知的障がいの回答比率が高くなるという結果となっている。また、所属なし (通園通学していない) 児童も全体で10人弱含まれている結果となった。

3 発達障がい^{はったつしょう}の診断内容^{しんだんないよう}

発達障がい^{はったつしょう}の診断内容^{しんだんないよう}については、図2-3「発達障がい^{はったつしょう}の診断内容^{しんだんないよう}」のとおりであった。発達障がい^{はったつしょう}の診断^{しんだん}を受けた者^{もの}の中では、「自閉症スペクトラム^{じへいしょう}」41.1%（46人^{にん}）、「注意欠陥多動性障がい（ADHD）」20.5%（23人^{にん}）の回答^{かいとう}が多^{おほ}かった。

図2-3 「発達障がい^{はったつしょう}の診断内容^{しんだんないよう}」 複数回答^{ふくすうかいとう}



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
こうはんせいはったつしょう 広汎性発達障がい	0	0.0%	5	6.7%	0	0.0%	0	0
じへいしょう 自閉症スペクトラム	5	29.4%	38	50.7%	1	33.3%	1	0
こうきのうじへいしょう 高機能自閉症	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	0
あすぺるがーしょうこうぐん アスペルガー症候群	1	5.9%	2	2.7%	0	0.0%	0	0
ちゅういけつかんたどうせいしょう 注意欠陥多動性障がい (ADHD)	4	23.5%	18	24.0%	0	0.0%	1	0
がくしゅうしょう 学習障がい (LD)	1	5.9%	7	9.3%	0	0.0%	1	0
その他	2	11.8%	2	2.7%	1	33.3%	2	0
しんだん 診断は受けていない。	4	23.5%	1	1.3%	1	33.3%	2	0
むかいとう 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ごうけい 合計	17	100.0%	75	100.0%	3	100.0%	7	0

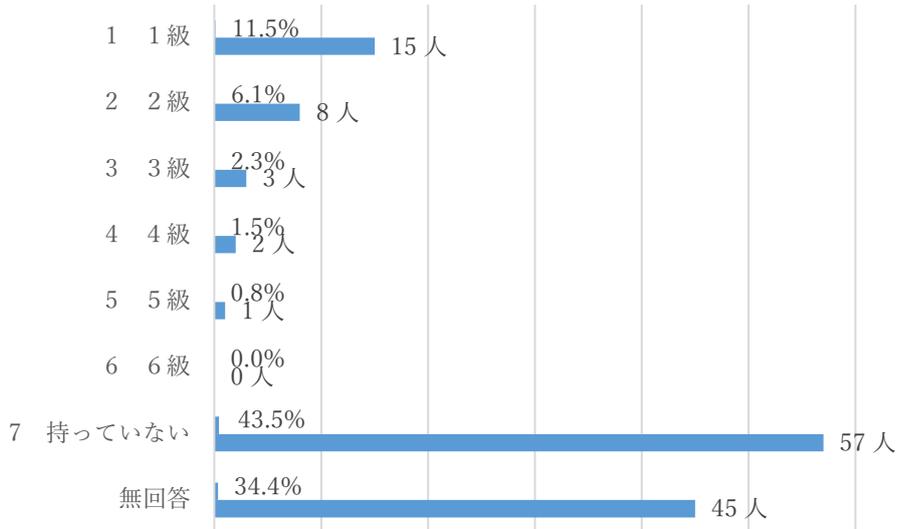
未就学児、就学児ともに「自閉症スペクトラム」とする回答が最も多く、次に注意欠陥多動性障がい (ADHD) とする回答が多かった。なお、就学児においては、「自閉症スペクトラム」とした回答の割合は全体で 50.7% と 5割を占める結果となった。

4 障がい者手帳の種類、等級、程度

(1) 身体障害者手帳

身体障害者手帳については、図2-4-1「身体障害者手帳」のとおりであり、所持する者のうち「1級」が、11.5%（15人）とした回答が多かった。

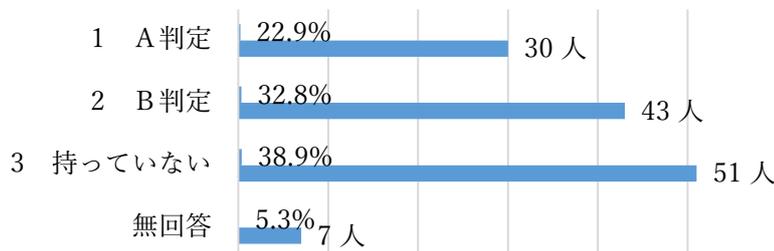
図2-4-1 「身体障害者手帳」



(2) 療育手帳

療育手帳については、図2-4-2「療育手帳」のとおりであり、所持する者のうち「B判定」が、32.8%（43人）と回答が多かった。

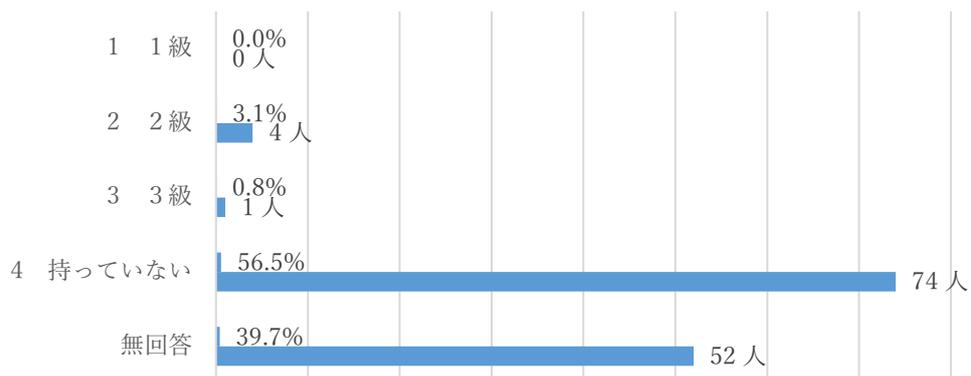
図2-4-2 「療育手帳」



(3) 精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳については、図2-4-3「精神障害者保健福祉手帳」のとおりであり、所持する者のうち「2級」が、3.1%（4人）と回答が多かった。

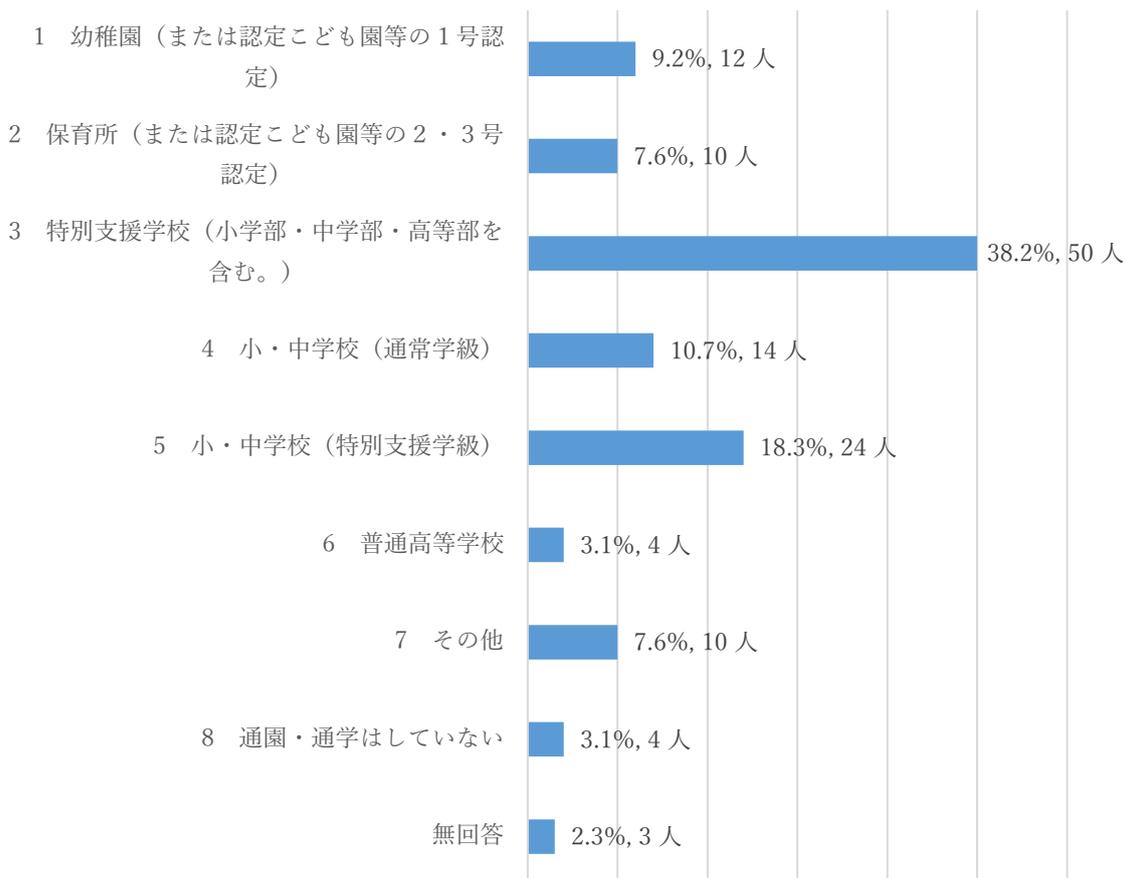
図2-4-3 「精神障害者保健福祉手帳」



5 通園・通学の状況等

通園・通学の状況等については、「特別支援学校」に在籍するとの回答が、38.2% (50人) と最も多かった。なお、「その他」と回答したその具体的な記載内容としては、【通園・通学の状況等 (記載内容)】のとおりである。

図2-5 「通園・通学の状況等」



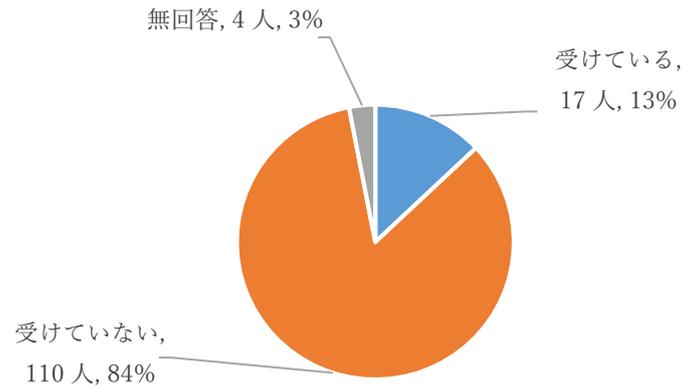
【通園・通学の状況等 (記載内容)】

- ・ 認可外保育施設
- ・ 療育施設
- ・ 児童発達支援施設
- ・ 通信制高校
- ・ ふらっぷ・コパンクラージュ
- ・ 会津支援学校高等部

6 医療的ケアの受診状況

医療的ケアの受診状況については、図2-6「医療的ケアの受診状況」のとおりであり、「医療的ケアは受けていない」とする回答が、84%（110人）と最も多かった。

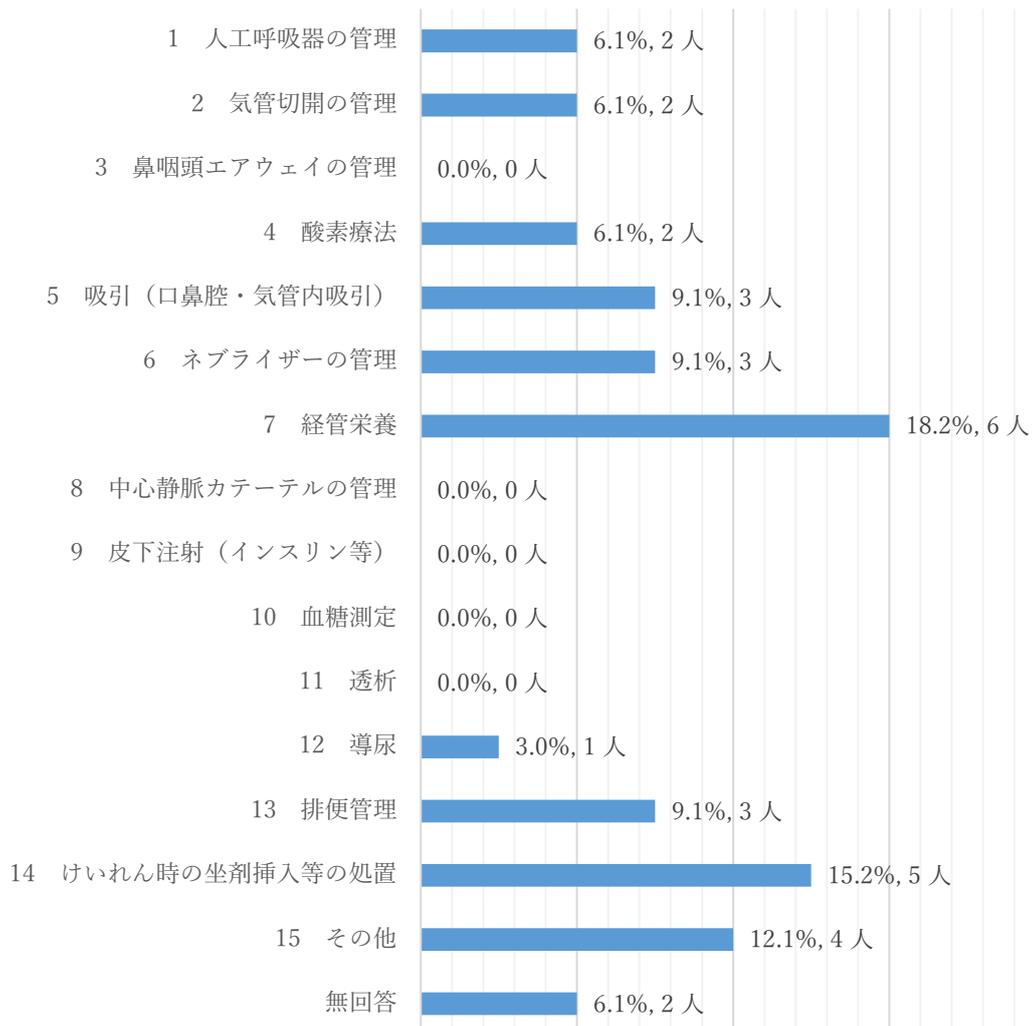
図2-6 「医療的ケアの受診状況」



7 医療的ケアの内容

医療的ケアの内容については、図2-7「医療的ケアの内容」のとおりであり、「経管栄養」としての回答が、18.2% (6人) と最も多かった。次いで「けいれん時の坐剤挿入時の処置」としての回答が、15.2% (5人) で多かった。

図2-7 「医療的ケアの内容」 複数回答

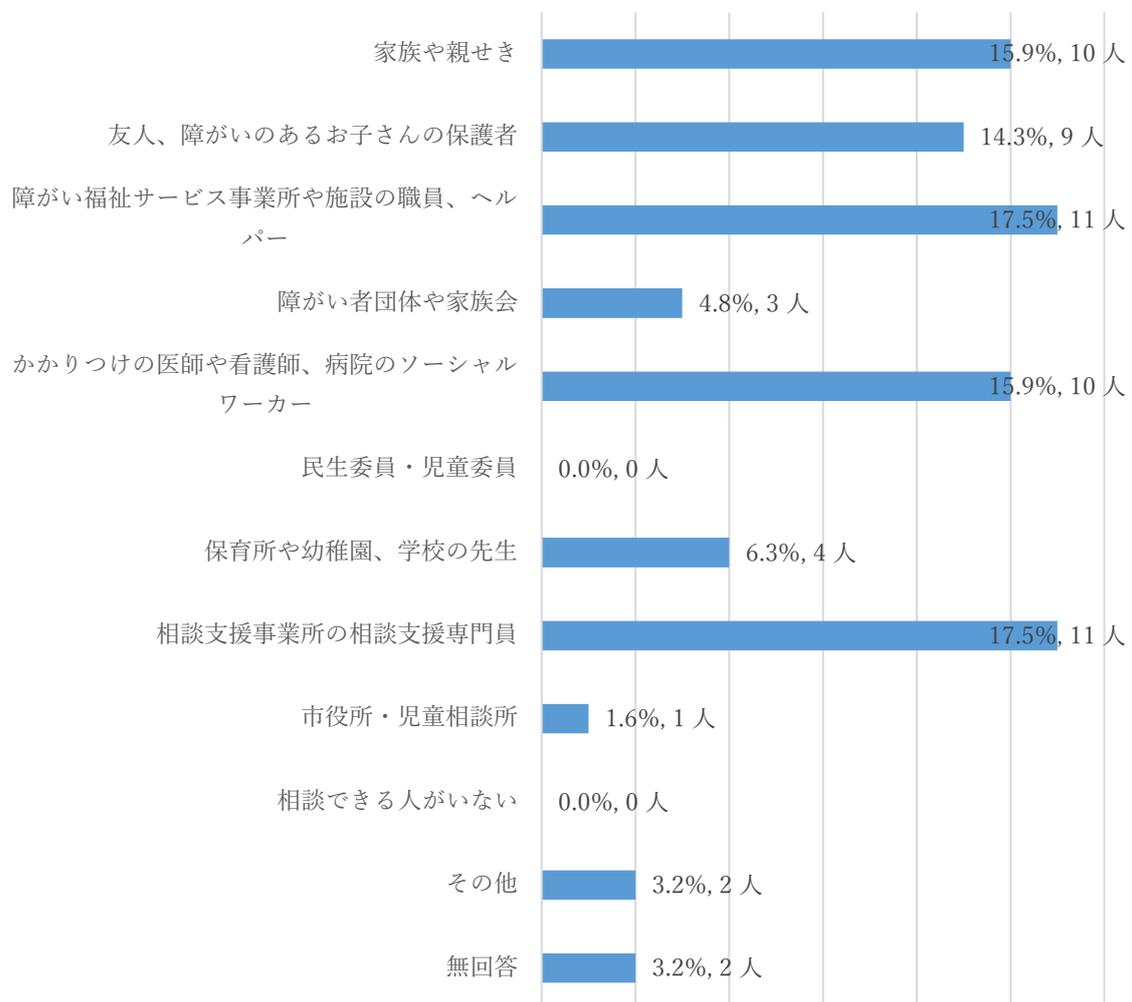


8 必要とする医療的ケアの相談先（医療的ケアを受けていると回答された方）

医療的ケアを必要とする子どもを育てていくにあたって不安なことや困っていることを誰に相談をしているかを問う設問であったが、結果は、図2-8「必要とする医療的ケアの相談先」のとおりであった。「障がい福祉サービス事業所や施設の職員、ヘルパー」と同率で「相談支援事業所の相談支援専門員」とする回答が17.5%（11人）で最も多かった。

また、次いで「家族や親せき」と同率で「かかりつけの医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」とする回答が15.9%（10人）であった。

図2-8 「必要とする医療的ケアの相談先」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

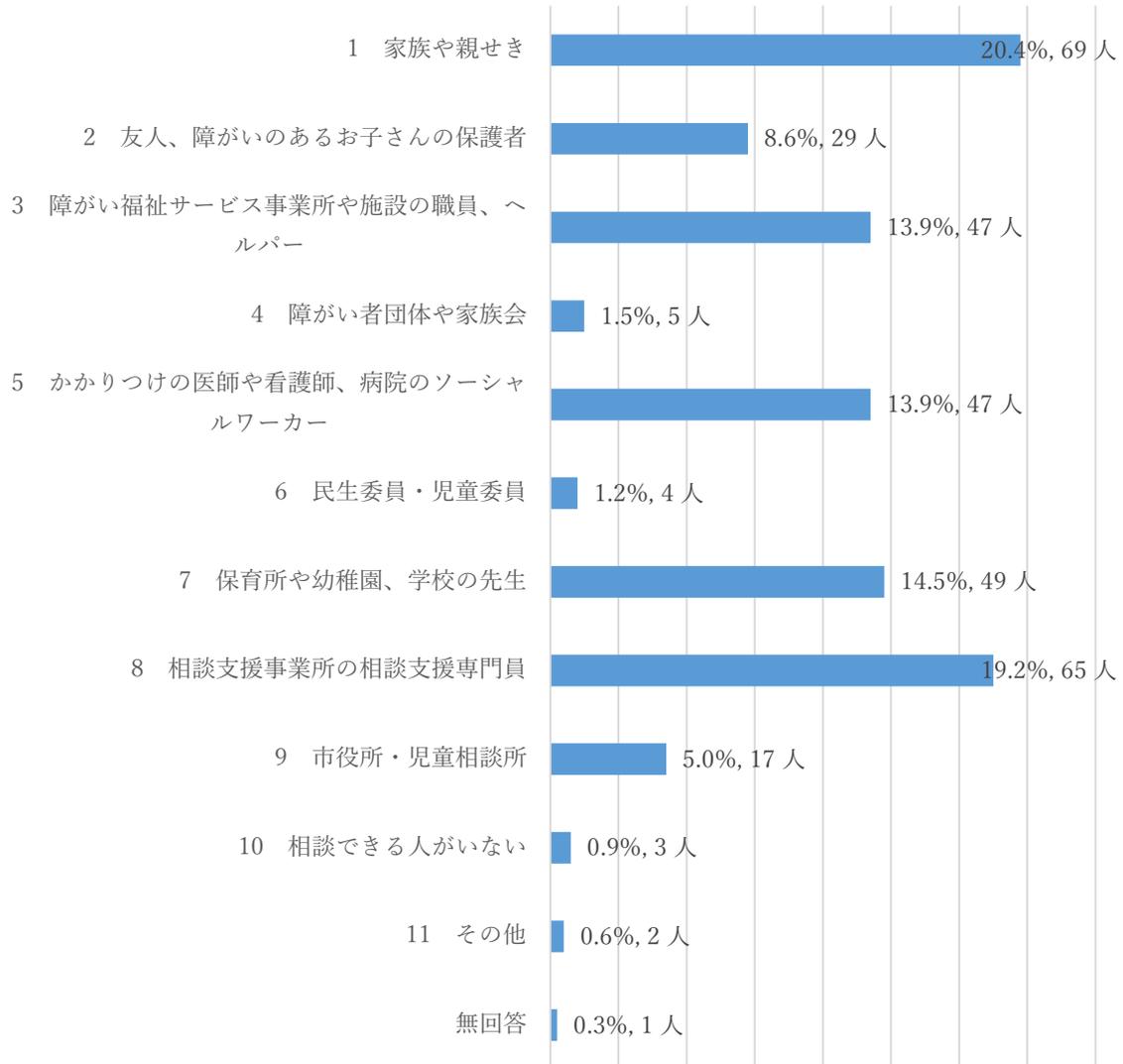
	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
かぞくしん 家族や親せき	2	28.6%	5	11.9%	1	25.0%	2	0
ゆうじんしやう 友人、障がいのあるお こさんの保護者	1	14.3%	7	16.7%	0	0.0%	1	0
しやうふくし 障がい福祉サービ ス事業所や施設の職 員、ヘルパー	1	14.3%	7	16.7%	1	25.0%	2	0
しやうふくし 障がい者団体や家 族会	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%	0	0
いし かかりつけの医師 や かんごしびやういん 看護師、病院のソ シヤルワーカー	1	14.3%	6	14.3%	1	25.0%	2	0
みんせいいん 民生委員・児童委 員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ほいくしよ 保育所や幼稚園、 学校の先生	1	14.3%	3	7.1%	0	0.0%	0	0
そうだん 相談支援事業所の 相談支援専門員	1	14.3%	7	16.7%	1	25.0%	2	0
しやくしよ 市役所・児童相談 所	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0
そうだん 相談できる人が いない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
その他	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%	0	0
なかいとう 無回答	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	1
ごうけい 合計	7	100.0%	42	100.0%	4	100.0%	9	1

未就学児では「家族や親せき」とする回答が28.6%（2人）で最も多く、就学児では同率で「友人、障がいのあるお子さんの保護者」や「障がい福祉サービス事業所や施設の職員、ヘルパー」及び、「相談支援事業所の相談支援専門員」とした回答16.7%（7人）が最も多い結果となった。未就学児と就学児を比べると、就学児の方が回答率が高く、回答率の高い項目の数値の開きは少ない。

10 子どもの主な相談先（医療的ケアを受けていないと回答された方）

子どもの主な相談先については、保護者が、子どものことで主に誰に相談をしているかを問う設問であったが、図2-10「子どもの主な相談先」のとおりであった。「家族や親せき」を主な相談相手であるとする回答が20.4%（69人）と最も多かった。

図2-10 「子どもの主な相談先」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
かぞくしん 家族や親せき	14	22.2%	48	19.9%	1	20.0%	4	2
ゆうじんしやう 友人、障がいのあるお こさんの保護者	4	6.3%	23	9.5%	0	0.0%	2	0
しやうふくし 障がい福祉サービ ス事業所や施設の職 員、ヘルパー	11	17.5%	34	14.1%	0	0.0%	2	0
しやうしやだんたい 障がい者団体や家族 会	0	0.0%	5	2.1%	0	0.0%	0	0
いしかんごし かかりつけの医師や 看護師、病院のソ シヤルワーカー	9	14.3%	30	12.4%	3	60.0%	5	0
みんせいいん 民生委員・児童委員	0	0.0%	3	1.2%	0	0.0%	0	1
ほいくしよ 保育所や幼稚園、学 校の先生	12	19.0%	33	13.7%	0	0.0%	3	1
そうだん 相談支援事業所の相 談支援専門員	11	17.5%	48	19.9%	1	20.0%	4	1
しやくしよ 市役所・児童相談所	2	3.2%	14	5.8%	0	0.0%	1	0
そうだん 相談できる人がいな い。	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	1
その他	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0
なかいとう 無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0
ごうけい 合計	63	100.0%	241	100.0%	5	100.0%	23	6

未就学児では「家族や親せき」とする回答が22.2%（14人）で最も多く、就学児では「家族や親せき」と同率で「相談支援事業所の相談支援専門員」とする回答が19.9%（48人）と最も多いという結果となった。一方、所属なし児童では、「かかりつけの医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」とする回答が60.0%で（3人）で最も多かった。

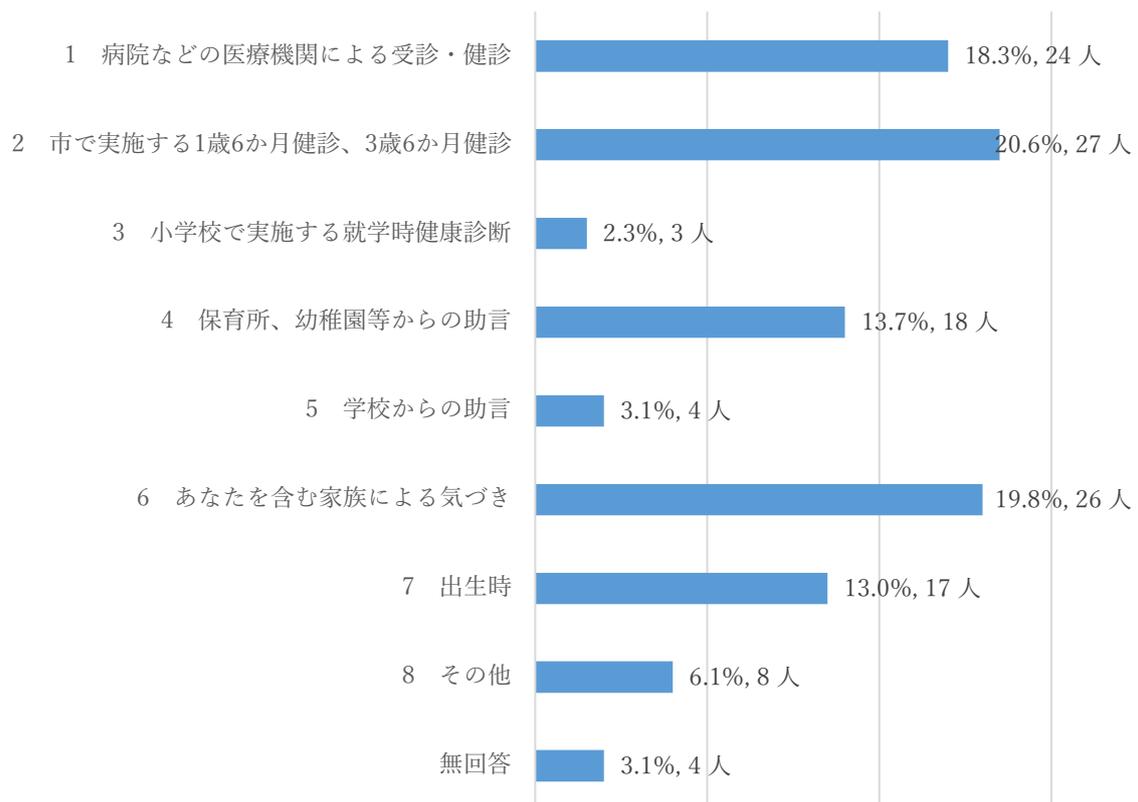
2 発達課題や障がいへの「気づき」と「相談」について

ここでは、子どもの発達課題や障がいについて、どのように気づき、また、どのような機関に相談しているのか分析している。

1 子どもの発達課題や障がいに気づいたきっかけ

子どもの発達課題や障がいに気づいたきっかけについては、図3-1「子どもの発達課題や障がいに気づいたきっかけ」のとおりであり、「市で実施する1歳6か月健診、3歳6か月健診」とする回答が、20.6%（27人）と多く、次いで、「あなたを含む家族による気づき」19.8%（26人）、「病院などの医療機関による受診・健診」18.3%が多かった。

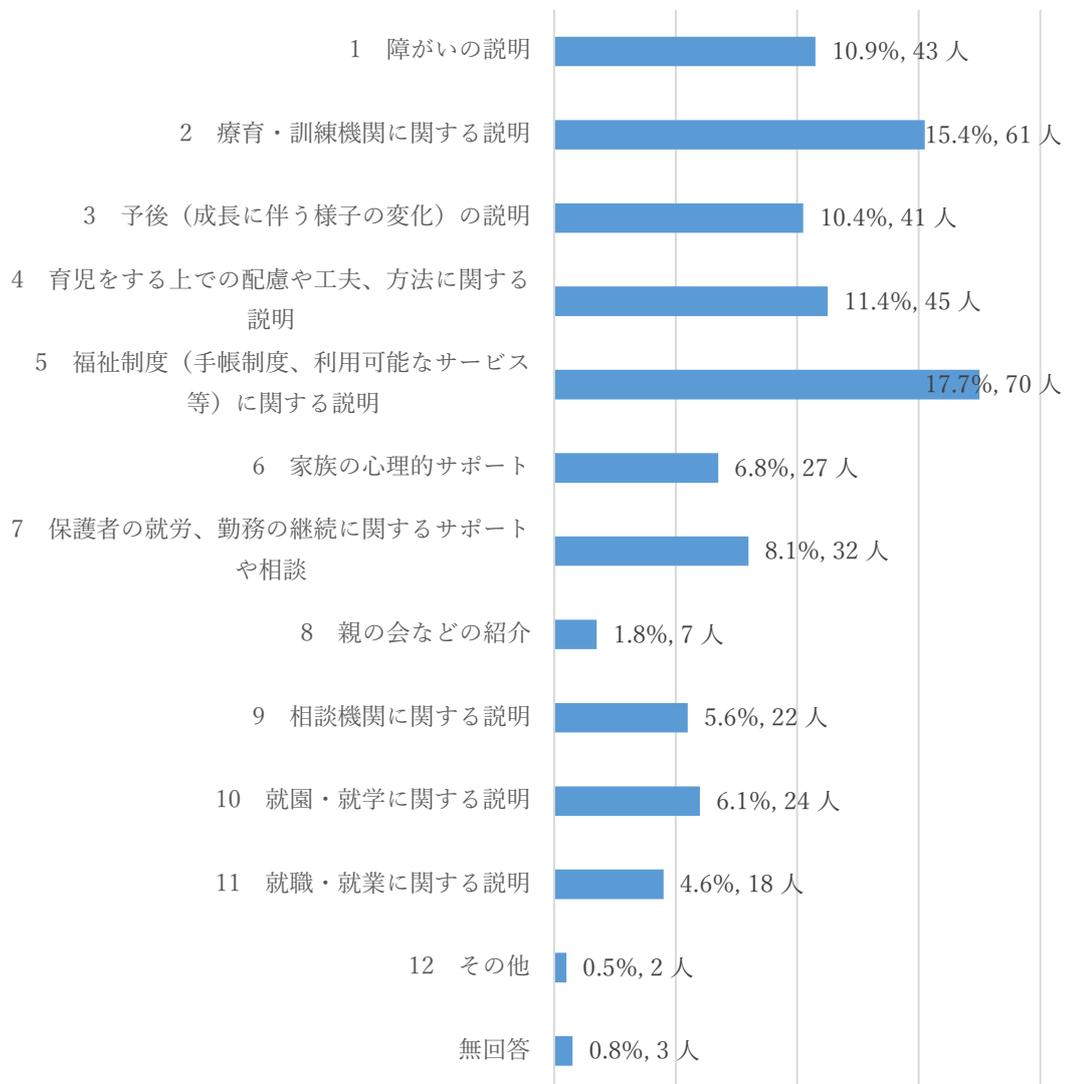
図3-1 「子どもの発達課題や障がいに気づいたきっかけ」



2 障がいや発達の課題の診断を受けたときの家族に対する支援

障がいや発達の課題の診断を受けたときの家族に対する支援については、診断を受けたときにどのような家族への支援があることが望ましいかを問う設問であったが、結果は、図3-2「障がいや発達の課題の診断を受けたときの家族に対する支援」のとおりであった。「福祉制度（手帳制度、利用可能なサービス等）に関する説明」とする回答が17.7%（70人）で最も多く、次いで「療育・訓練機関に関する説明」とする回答が15.4%（61人）と多かった。

図3-2「障がいや発達の課題の診断を受けたときの家族に対する支援」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
しょう 障がい <small>の</small> 説明	9	13.0%	31	11.2%	2	18.2%	1	0
りょういく 療育・訓練機関 <small>に</small> 関する説明	13	18.8%	41	14.9%	1	9.1%	5	1
よご 予後 <small>（成長に伴う様子）</small> の変化 <small>の</small> 説明	8	11.6%	30	10.9%	1	9.1%	2	0
いくじ 育児をする上での配慮や工夫、方法 <small>に</small> 関する説明	10	14.5%	29	10.5%	3	27.3%	2	1
ふくしせいど 福祉制度 <small>（手帳制度、利用可能なサービス等）</small> に関する説明	8	11.6%	54	19.6%	1	9.1%	7	0
かぞく 家族の心理的サポート	3	4.3%	18	6.5%	1	9.1%	4	1
ほごしや 保護者の就労、勤務の継続 <small>に</small> 関するサポートや相談	6	8.7%	19	6.9%	0	0.0%	6	1
おや 親の会などの紹介	1	1.4%	6	2.2%	0	0.0%	0	0
そうだん 相談機関 <small>に</small> 関する説明	4	5.8%	15	5.4%	0	0.0%	3	0
しゅうえん 就園・就学 <small>に</small> 関する説明	5	7.2%	16	5.8%	2	18.2%	1	0
しゅうしよく 就職・就業 <small>に</small> 関する説明	2	2.9%	14	5.1%	0	0.0%	2	0
その他	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	0	0
な 無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	1
ごうけい 合計	69	100.0%	276	100.0%	11	100.0%	34	5

未就学児では「療育・訓練期間に関する説明」とする回答が18.8%（13人）、就学児では「福祉制度（手帳、サービス等）」とする回答が19.6%（54人）と最も多いという結果であり、未就学児と就学児におけるニーズの違いが出ている。

3 児童発達支援の利用状況について

児童発達支援は、未就学の障がいのある子どもを対象に、日常生活における基本的な動作の指導、知識、技能の付与、集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行うサービスである。

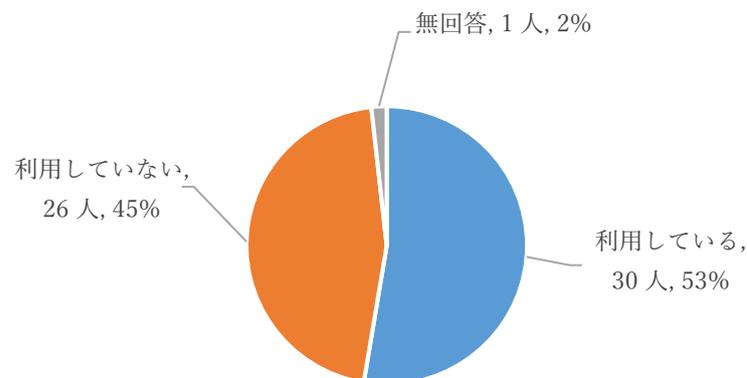
ここでは、児童発達支援がどのように利活用されているのかを分析している。

1 児童発達支援の利用状況

児童発達支援の利用状況については、未就学の子どもが、現在、児童発達支援を利用しているか問う設問であったが、図4-1「児童発達支援の利用状況」のとおりであった。

「利用している」とする回答が53%（30人）と最も多かった。

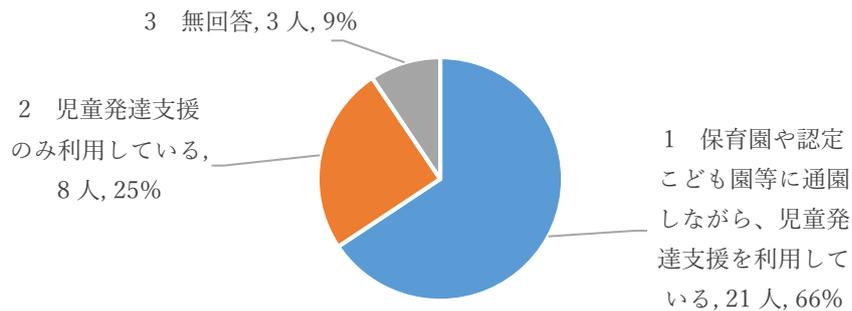
図4-1「児童発達支援の利用状況」



2 児童発達支援の利用の仕方

児童発達支援の利用の仕方については、児童発達支援を利用していると回答した方を対象に、保育園や認定こども園等に通園しながら児童発達支援を利用しているか問う設問であったが、図4-2「児童発達支援の利用の仕方」のとおりであった。「保育園や認定こども園等に通園しながら児童発達支援を利用している」とする回答が66%（21人）と最も多かった。

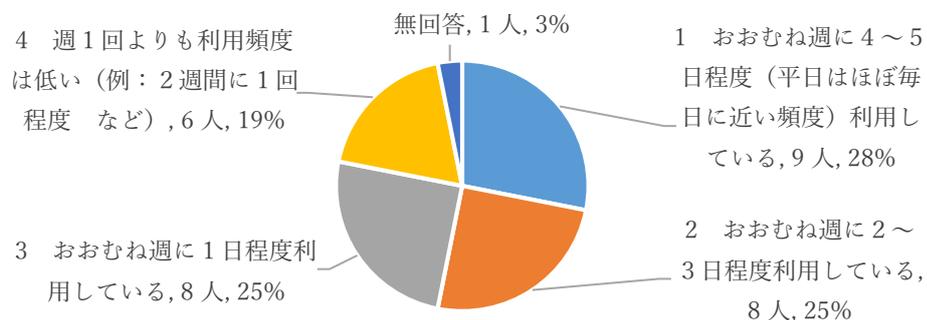
図4-2 「児童発達支援の利用の仕方」



3 児童発達支援の利用頻度

児童発達支援の利用頻度については、児童発達支援を利用していると回答した方を対象にその利用頻度を問う設問であったが、図4-3「児童発達支援の利用頻度」のとおりであった。「おおむね週に4～5日程度利用している」とする回答が28%（9人）と最も多かった。次いで「おおむね週に2～3日程度利用している」とする回答と「おおむね週に1日程度利用している」とする回答が25%（8人）と同率で多かった。

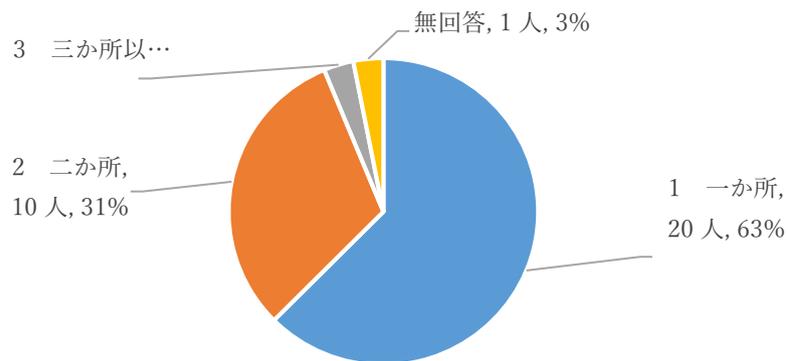
図4-3 「児童発達支援の利用頻度」



4 利用している児童発達支援事業所の数

利用している児童発達支援事業所の数については、児童発達支援を利用していると回答した方を対象に、現在利用している児童発達支援事業所の数を問う設問であったが、図4-4「利用している児童発達支援事業所の数」のとおりであった。「一か所」とする回答が63%（20人）と最も多かった。

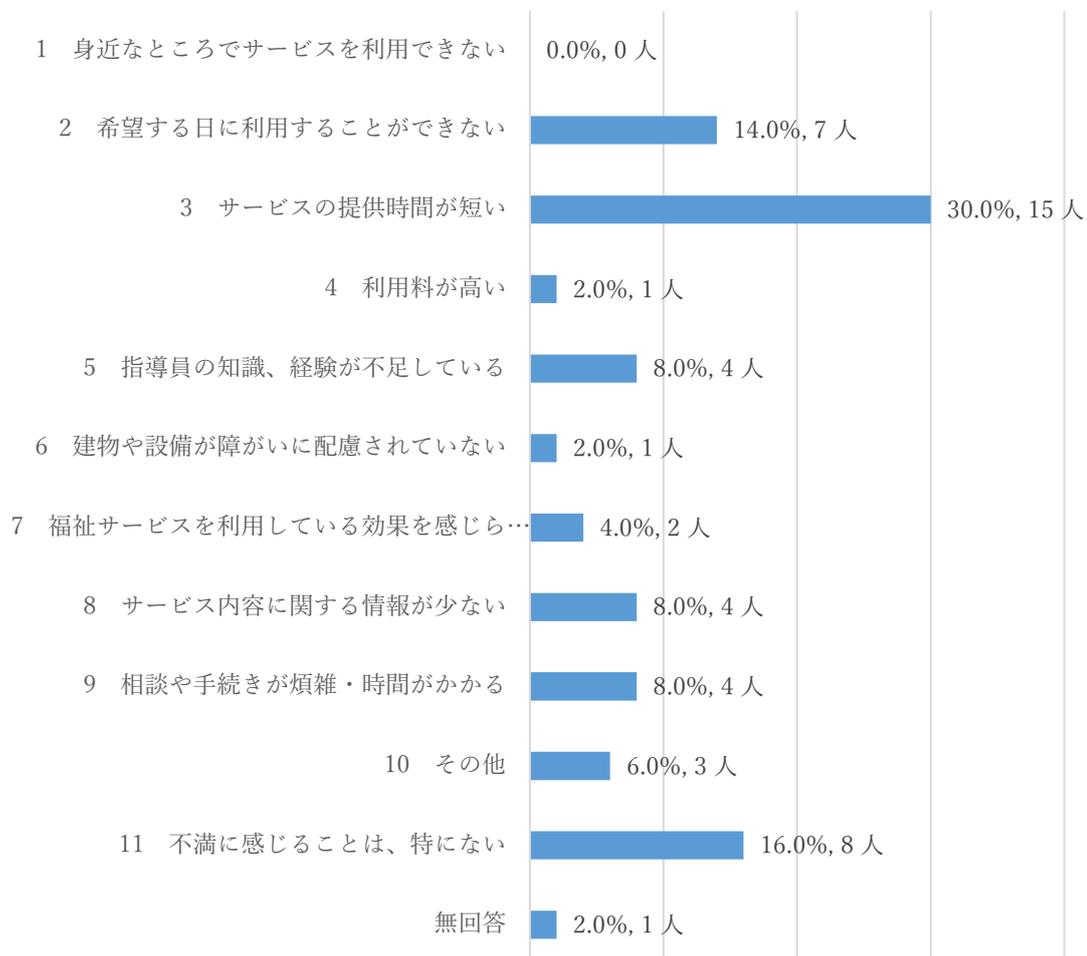
図4-4 「利用している児童発達支援事業所の数」



5 児童発達支援の利用に関する不満

児童発達支援の利用に関する不満については、児童発達支援を利用していると回答した方を対象に児童発達支援を利用するに当たって不満と感じる点を問う設問であったが、図4-5「児童発達支援の利用に関する不満」のとおりであった。「サービスの提供時間が短い」とする回答が30.0%（15人）と最も多く、次いで「不満を感じることは、特にない」とする回答が16.0%（8人）と多かった。

図4-5 「児童発達支援の利用に関する不満」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

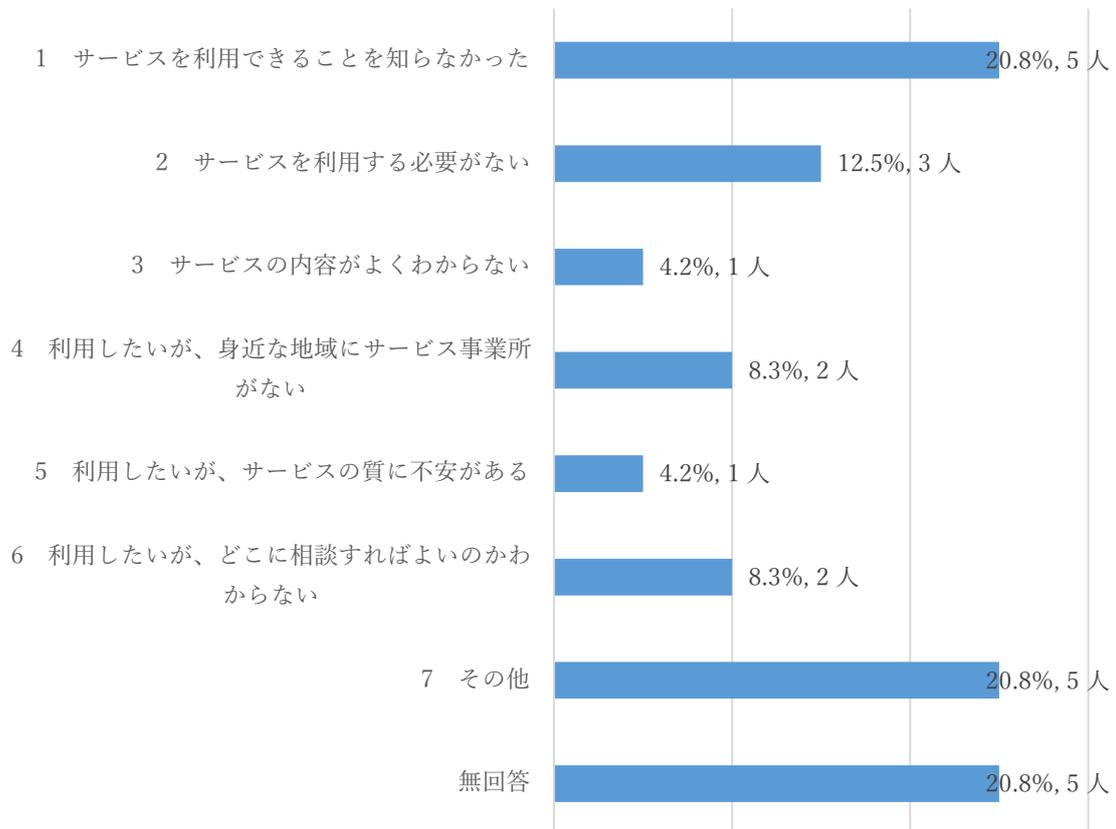
(かいとう 3つまで)	てちょうあり			てちょうなし		
	しんたい しょうがいしゃ 障害者 てちょう 手帳	りょういく 療育 てちょう 手帳	せいしん しょうがいしゃ 障害者 ほけんふくし 保健福祉 てちょう 手帳	しんたい しょうがいしゃ 障害者 てちょう 手帳	りょういく 療育 てちょう 手帳	せいしん しょうがいしゃ 障害者 ほけんふくし 保健福祉 てちょう 手帳
みじか 身近なところでサービス を利用できない	0	0	0	0	0	0
きぼう 希望する日に利用するこ とができない	1	4	0	3	3	3
サービスの提供時間が みじか 短い	2	7	0	9	8	10
りょうりょう 利用料が高い	0	0	0	1	1	1
しどういん 指導員の知識、経験が ふそく 不足している	0	2	0	2	2	2
たてもの 建物や設備が障がい はいりよ 配慮されていない	0	1	0	0	0	0
ふくし 福祉サービスを利用して いる効果を感じられない	0	2	0	1	0	1
サービス内容に関する じょうほう 情報が少ない	0	1	0	3	3	3
そうだん 相談や手続きが煩雑・ じかん 時間がかかる	0	0	0	4	4	4
その他	0	2	0	2	1	2
ふまん 不満に感じることは、特 にない	1	4	0	4	4	5
な 無回答	1	1	0	0	0	1
ごうけい 合計	5	24	0	29	26	32

もっと
最も多かった「サービスの提供時間が短い」については、各手帳の有無に関係なく
かいとうすう
回答数が多かったことがわかる。また、「相談や手続きが煩雑・時間がかかる」について
てちょう
は、手帳を持っていた方がスムーズに行えることが言える。
ぜんたいてき
全体的にみて、手帳を持っていない方の不満度が高い。

6 児童発達支援を利用しない理由

児童発達支援を利用しない理由については、児童発達支援を利用していないと回答した方を対象にその理由を問う設問であったが、結果は、図4-6「児童発達支援を利用しない理由」のとおりであった。「サービスを利用できることを知らなかった」とする回答が 20.8% (5人) で最も多かった。

図4-6 「児童発達支援を利用しない理由」



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

(回答1つだけ)	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
サービスを利用できることを知らなかった	1	4	0	2	0	2
サービスを利用する必要がない	0	2	0	2	1	2
サービスの内容がよくわからない	0	1	0	0	0	0
利用したいが、身近な地域にサービス事業所がない	1	2	0	0	0	0
利用したいが、サービスの質に不安がある	0	1	0	0	0	0
利用したいが、どこに相談すればよいかわからない	0	1	0	2	1	2
その他	3	3	0	1	1	2
無回答	1	4	0	1	1	2
合計	6	18	0	8	4	10

「サービスを利用できることを知らなかった」については、療育手帳所持者が4人で最も多く、次いで身体障害者手帳を所持していない方の回答が2人で多かった。一方、「サービスを利用する必要がない」と答えた方についても、療育手帳保持者と身体障害者手帳を所持していない方が2人ずつで多かった。

全体的にみて、回答のバラツキがあるため、利用したいがサービスの内容がよく分からず悩んでいる方が多いように見受けられるため、更なるサービスの広報、サポートが必要だと考える。

4 放課後等デイサービスについて

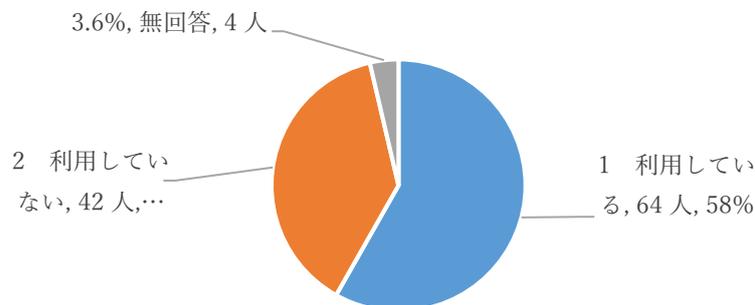
放課後等デイサービスは、就学している障がいのある子どもを対象に、授業の終了後、または学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他必要な支援を行うサービスである。

ここでは、放課後等デイサービスがどのように利活用されているのかを分析している。

1 放課後等デイサービスの利用状況

放課後等デイサービスの利用状況については、就学している子どもが、現在、放課後等デイサービスを利用しているか問う設問であったが、図5-1「放課後等デイサービスの利用状況」のとおりであり、「利用している」とする回答が58%（64人）と最も多かった。

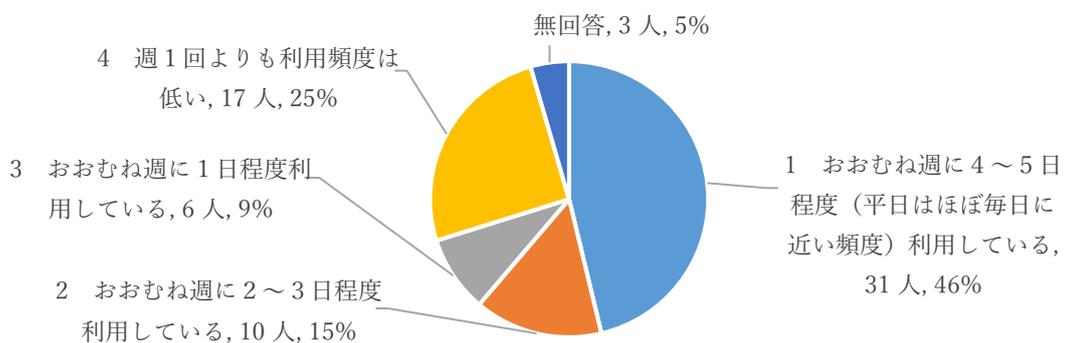
図5-1 「放課後等デイサービスの利用状況」



2 放課後等デイサービスの利用頻度

放課後等デイサービスの利用頻度については、放課後等デイサービスを利用していると回答した方を対象にその利用頻度を問う設問であったが、図5-2「放課後等デイサービスの利用頻度」のとおりであった。「おおむね週に4～5日程度利用している」とする回答が46%（31人）と最も多かった。次いで「週1回よりも利用頻度は低い」とする回答が25%（17人）と多かった。

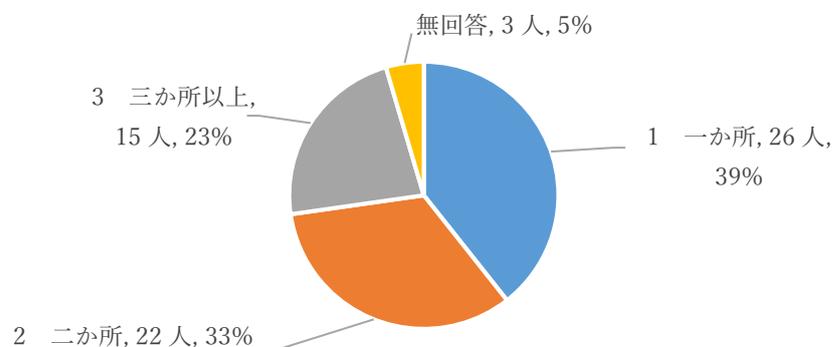
図5-2 「放課後等デイサービスの利用頻度」



3 利用している放課後等デイサービス事業所の数

利用している放課後等デイサービス事業所の数については、放課後等デイサービスを利用していると回答した方を対象に、現在利用している放課後等デイサービス事業所の数を問う設問であったが、図5-3「利用している放課後等デイサービス事業所の数」のとおりであった。「一か所」とする回答が39%（26人）と最も多く、次いで「二か所」とする回答が33%（22人）と多かった。

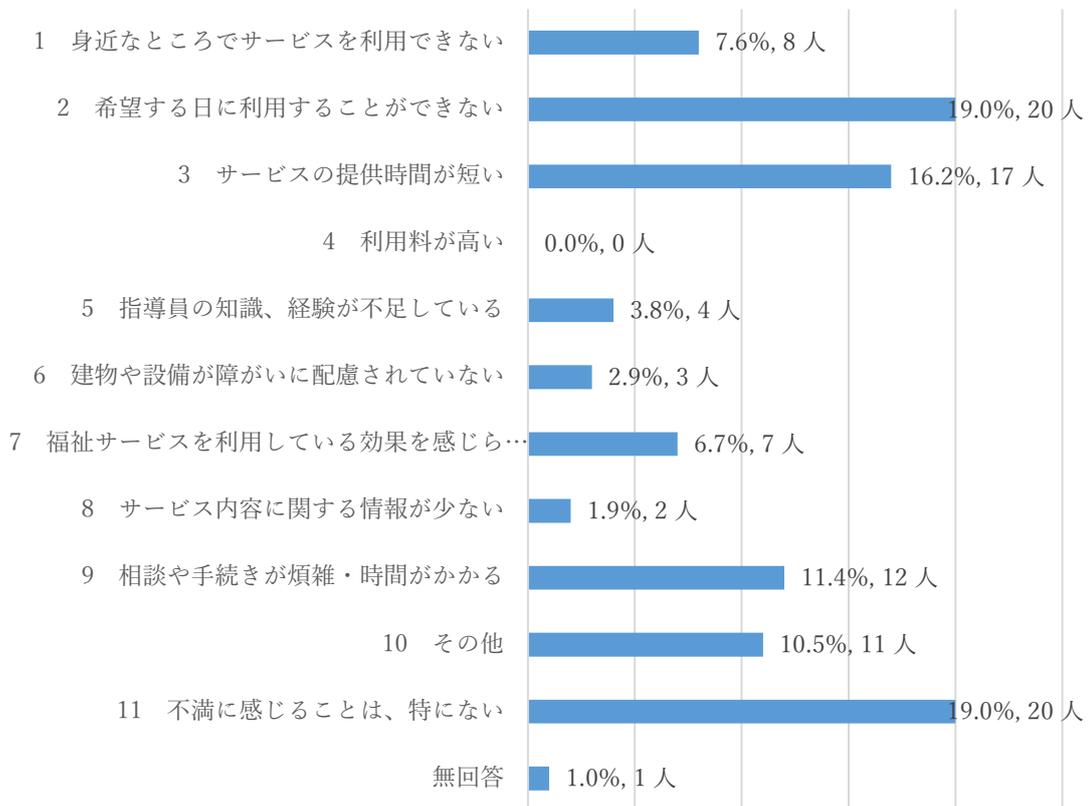
図5-3 「利用している放課後等デイサービス事業所の数」



4 放課後等デイサービスの利用に関する不満

放課後等デイサービスの利用に関する不満については、放課後等デイサービスを利用していると回答した方を対象に放課後等デイサービスを利用するに当たって不満と感ずる点を問う設問であったが、図5-4「放課後等デイサービスの利用に関する不満」のとおりであった。「希望する日に利用することができない」とする回答と「不満に感ずることは、特にない」とする回答が同率で19.0%（20人）と最も多く、次いで「サービスの提供時間が短い」とする回答が16.2%（17人）と多いものとなった。「その他」と回答したその具体的な記載内容としては、【放課後等デイサービスの利用に関する不満（記載内容）】のとおりである。

図5-4 「放課後等デイサービスの利用に関する不満」 複数回答



【放課後等デイサービスの利用に関する不満（記載内容）】

- 事業所によってサービス内容に大きな差がある。感染症対策の差、活動内容、専門性はあっても活かされていない等
- 書類の量が多い
- 利用時間（迎えの時間）が他の利用者と少し合わず、利用が可能か分かるのがギリギリになっている。
- 時間の指定があり、仕事をしていると有休を取らないとサービスをうけられない
- 利用できる施設が少ない
- 知的障害児を持つ親の気持ちがわかってもらえない。
- 送迎がない所が多い
- 学年が上がるにつれ、学校のクラブ、委員会などで利用できる時間が少なくなった。
- 小学部までの提供しかない所がある
- 利用予定表の提出期限が早すぎて予定が立てにくい

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
身近なところでサービス を利用できない	5	4	0	2	4	6
希望する日に利用する ことができない	7	13	0	6	6	11
サービスの提供時間が 短い	6	12	0	5	4	9
利用料が高い	0	0	0	0	0	0
指導員の知識、経験が 不足している	1	2	0	2	2	3
建物や設備が障がい 配慮されていない	1	2	0	1	0	1
福祉サービスを利用して いる効果を感じられない	0	3	1	4	4	3
サービス内容に関する 情報が少ない	1	2	0	1	0	1
相談や手続きが煩雑・ 時間がかかる	4	7	0	5	4	8
その他	2	5	0	6	6	8
不満を感じることは、特 にない	4	11	0	10	7	14
無回答	0	1	0	1	0	1
合計	31	62	1	43	37	65

最も多かった「希望する日に利用することができない」と「不満を感じることは、特にな
い」については、各手帳の有無に関係なく回答数が多かったことがわかる。一方、「福祉
サービスを利用してはいる効果を感じられない」については、手帳を持っていないの方が
不満を感じていることがわかる。

全体的にみて、手帳を持っていない方の不満が多くみえるが、療養手帳については、手帳
を持っているの方が不満度が高いことがわかる。

【放課後等デイサービスを利用しない理由（記載内容）】

- 子供のとくせいを理解した人がいるのかわからない為あずける事ができない人がいると思う
- 重度心身障害の子が通える場所が少なく、希望した日に利用できず困っています。
- 必要な書類、書くものが多すぎる
- 児童放デイを増やしてほしい
- 放課後等デイサービスの職員の障がいに対する理解があまりなく、子供の行動について注意され、利用目的がちがったりするのに問題があると思う。
- 土日も見てもらえると助かる。
- 小5までサービスを受けていました。本人とは、相性が悪く、行くのも大変でした。
- 長期休暇中の利用時間がもう少し早いとありがたいです。
- 現在利用している事業所が小学生までなので、その後利用できる事業所を探しているが、空きがなくこまっている。特に平日は空きがなく、半年以上も待ち
- 利用する施設は会津支援学校さんの児童・生徒が多い為、聴覚支援学校の利用者は早退したりして利用しています。同じ利用料金で平等に利用できるように配車(送迎の面)なども含めて他のサポート対策を考えてほしいです。別にファミサポなどを利用すると、家庭の負担が多くなってしまいうので困ります。
- 事業所を増やして欲しい。
- 送迎がある施設を増やして欲しいです。支援学校からの送迎はあるけど小学校からってのは少ないので…。
- 数が少なすぎて小学校に行ってから利用が希望通りにできない。もっと、学校まで来てくれるところを増やしてほしい。週5利用したいが週2日しか利用できない。
- 利用者が多く、利用出来る日数があっても、入れない日がある。仕事をしているので希望する日が利用出来ないと困る。
- 現在、事業所によって利用時間が違ったり、午後からしかやっていたりありますが、長期休暇についても午前から利用できるようにしてほしい。自分が希望する曜日や日数が入れない場合もあるので事業所がもっと増えてもらえたらありがたいです。施設についても外遊びなどができたり子供が広々と体を動かせるような広いスペースだともっといいなと思います。
- 学習障がい児に対するケアができる施設が少ない。またデイサービスまでの送迎の有無で利用できる施設が選びにくくなっている。学校の終了時こくが日によってちがうためファミリーサポートなどの支援も受けにくい(送迎のための)
- 障がいや医療ケア(有)で、利用する所が少ない。選べない。利用を断れるコトが多い。(定員がいっぱいで)(共働きでない為等)
- 特別支援学校の高等部の下校時間が15:10になり、デイサービスの利用がしづらくなった。(利用時間が短くなったり、入浴ができなくなったり)

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
サービスを利用できることを知らなかった	0	4	0	2	1	2
サービスを利用する必要がない	4	9	3	7	8	7
サービスの内容がよくわからない	1	0	0	0	1	1
利用したいが、身近な地域にサービス事業所がない	0	0	0	0	0	0
利用したいが、サービスの質に不安がある	1	1	0	0	1	1
利用したいが、どこに相談すればよいのかわからない	1	3	0	1	1	2
その他	2	8	2	4	3	5
無回答	0	0	0	3	3	3
合計	9	25	5	17	18	21

最も多かった「サービスを利用する必要がない」については、各手帳の有無に関係なく回答数が多かったことがわかる。それ以外の項目についても、手帳の有無で、回答数の乖離はないようにみえる。

5 保育所等訪問支援について

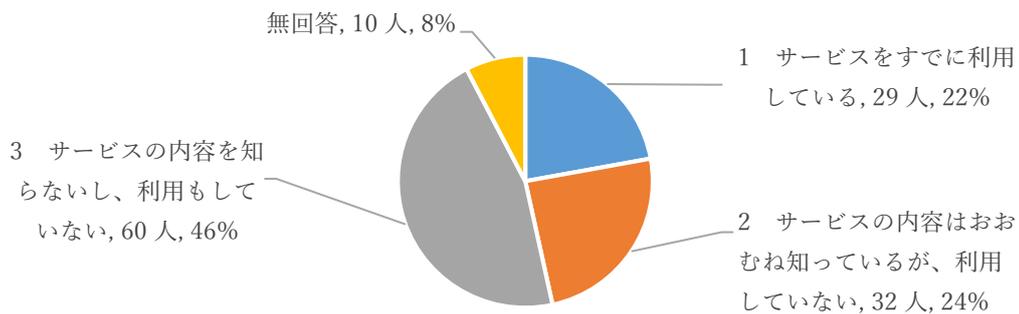
保育所等訪問支援については、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校などに通う障がいのある子どもを対象に、これらの施設を訪問し、集団生活への適応のために専門的な支援を行うサービスである。

ここでは、保育所等訪問支援がどのように活用されているのかを分析している。

1 保育所等訪問の利用状況

保育所等訪問の利用状況については、当該サービスの内容を知っているか、また、現在、利用しているか問う設問であったが、図6-1「保育所等訪問の利用状況」のとおりであり、「サービスの内容を知らないし、利用もしていない」とする回答が46%（60人）と最も多かった。

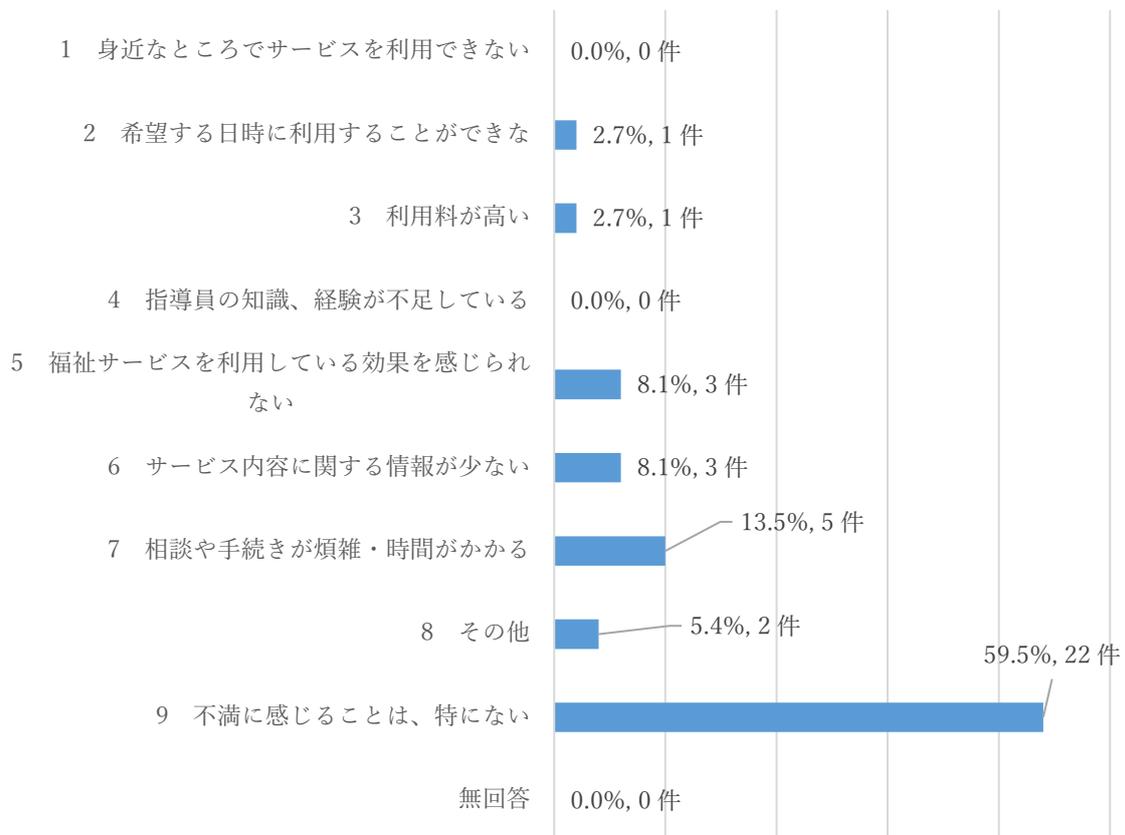
図6-1 「保育所等訪問の利用状況」



2 保育所等訪問支援の利用に関する不満

保育所等訪問支援の利用に関する不満については、保育所等訪問支援を利用していると回答した方を対象に保育所等訪問支援を利用するに当たって不満と感じる点を問う設問であったが、図6-2「保育所等訪問支援の利用に関する不満」のとおりであり、「不満を感じることは、特にない」とする回答が59.5%（22人）と最も多かった。

図6-2 「保育所等訪問支援の利用に関する不満」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析①】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
みじか 身近なところでサービス を りよう 利用できない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
きぼう 希望する日時に利用する ことが できな い	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	0	0
りようりょう 利用料が高い	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
しどういん 指導員の知識、経験が ふそく 不足している	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ふくし 福祉サービスを利用して いる 効果を 感じられ ない	1	6.3%	2	10.5%	0	0.0%	0	0
サービス内容に関する じょうほう 情報が 少ない	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0
そうだん 相談や手続きが煩雑・ じかん 時間がかかる	3	18.8%	2	10.5%	0	0.0%	0	0
その他	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	1	0
ふまん 不満に感じることは、特 にない	9	56.3%	13	68.4%	0	0.0%	0	0
な 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ごうけい 合計	16	100.0%	19	100.0%	0	0.0%	2	0

みしゅうがくじ しゅうがくじ おまん かん とく
未就学児、就学児ともに「不満に感じることは、特にない」とする回答が最も多かつた。みしゅうがくじ 56.3% (9人)、しゅうがくじ 68.4% (13人)。次いで「相談や手続きが煩雑・時間がかかる」とする回答が多く、みしゅうがくじ 18.8% (3人)、しゅうがくじ 10.5% (2人)の結果となった。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析②】

	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
身近なところでサービスを 利用できない	0	0	0	0	0	0
希望する日時に利用する ことができない	0	0	0	1	1	1
利用料が高い	0	0	0	1	1	1
指導員の知識、経験が 不足している	0	0	0	0	0	0
福祉サービスを利用して いる効果を感じられない	0	0	0	3	3	3
サービス内容に関する 情報が少ない	0	1	0	3	2	3
相談や手続きが煩雑・ 時間がかかる	0	1	0	5	4	5
その他	0	2	0	1	0	1
不満に感じることは、特 にない	2	9	0	13	12	14
無回答	0	0	0	0	0	0
合計	2	13	0	27	23	28

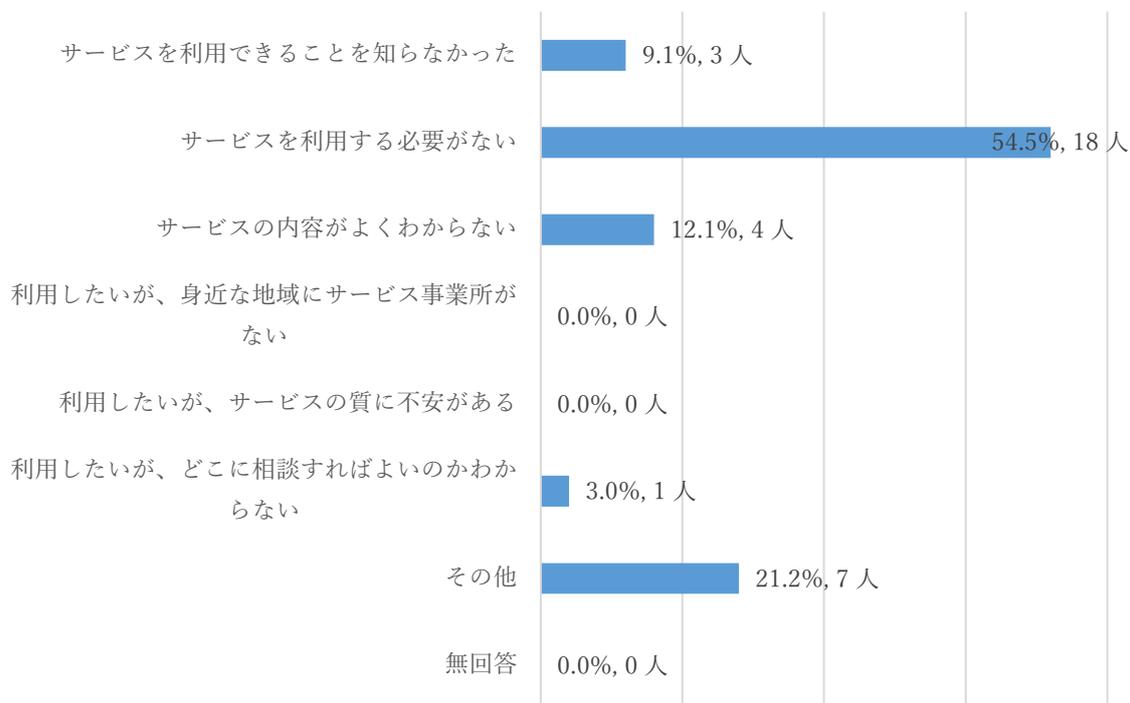
身体障害者手帳、療育手帳及び、精神障害者保険福祉手帳全てにおいて、「不満に感じることは、特にない」とする回答が最も多かった。また、手帳をもっている方の中では、療育手帳所持者の回答数が多く、手帳をもっていない方の中では、精神障害者保健福祉手帳所持者の回答数が多かった。

「相談や手続きが煩雑・時間がかかる」とする回答は、手帳をもっていない方の方が手帳をもっている方と比較し、多い結果となった。

3 保育所等訪問支援を利用しない理由

保育所等訪問支援を利用しない理由については、保育所等訪問支援を利用していないと回答した方を対象にその理由を問う設問であったが、図6-3「保育所等訪問支援を利用しない理由」のとおりであった。「サービスを利用する必要がない」とする回答が54.5%（18人）と最も多く、次いで「その他」とする回答が21.2%（7人）と多いものとなった。「その他」と回答したその具体的な記載内容としては、【保育所等訪問支援を利用しない理由（記載内容）】のとおりである。

図6-3「保育所等訪問支援を利用しない理由」



【保育所等訪問支援を利用しない理由（記載内容）】

- ・ こういうサービスがあるというのは専門員の方からお話があり知っています。利用したいという希望も伝えてあります。ですが、これに対する返答が何もなく、利用しているかは不明です。
- ・ 意外と保育所等がなかなか協力的ではなかったりすることが多い。もっと充実させてほしい。
- ・ 利用の申請はしているけれど利用の仕方とかタイミングがいまいち分からず未利用のままです。コロナもある為なかなか利用にたどりつかない感じです。
- ・ 保育所、幼稚園の先生に障害者＝面倒と入園もことわる所も多く、入園できる所はとてよく見てくださいましたが、支援とのコミュニケーションを園側がこころよくとろ

うとしてないと見受けられ、保護者も間にはさまれ気を使う。もっと訪問支援の理解をうながしてほしい。

- ・このサービスがあること、利用できることを知るまでにかなり時間がかかりました。もう少し分かりやすい(たとえばフローチャートのようなもの)があるとよかったです。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析①】

	未就学児		就学児		所属無し		その他	未回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	回答数
サービスを利用できることを知らなかった	0	0.0%	3	12.0%	0	0.0%	0	0
サービスを利用する必要がない	0	0.0%	17	68.0%	1	100.0%	0	0
サービスの内容がよくわからない	2	50.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	0
利用したいが、身近な地域にサービス事業所がない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
利用したいが、サービスの質に不安がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
利用したいが、どこに相談すればよいかわからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0
その他	2	50.0%	3	12.0%	0	0.0%	2	0
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
合計	4	100.0%	25	100.0%	1	100.0%	3	0

未就学児においては、「サービスの内容がよくわからない」とする回答が多く、就学児においては、「サービスを利用する必要がない」とする回答が最も多かった。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析②】

	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
サービスを利用できることを知らなかった	0	3	0	0	0	0
サービスを利用する必要がない	4	14	0	5	3	7
サービスの内容がよくわからない	1	3	0	2	1	2
利用したいが、身近な地域にサービス事業所がない	0	0	0	0	0	0
利用したいが、サービスの質に不安がある	0	0	0	0	0	0
利用したいが、どこに相談すればよいかわからない	1	1	0	0	0	1
その他	1	2	1	5	4	5
無回答	0	0	0	0	0	0
合計	7	23	1	12	8	15

身体障害者手帳、療育手帳をもっている方は、「サービスの内容がよくわからない」とする回答が最も多かった。また、身体障害者手帳、療育手帳をもっていない方においても、「サービスの内容がよくわからない」とする回答が最も多かった。

なお、手帳を持っている方の中では、療育手帳を持っている方の回答数が最も多かった。

6 福祉サービス（その他のサービス）の利用状況について

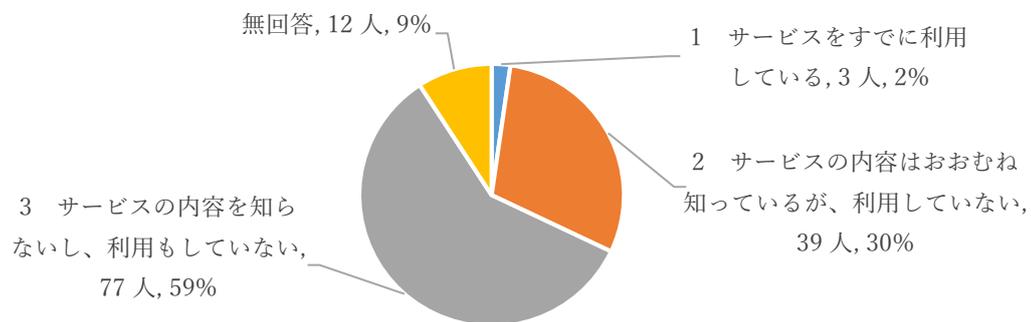
児童発達支援や放課後等デイサービス等の児童系の福祉サービス以外にも、ヘルパーが自宅を訪問し、入浴や排せつ、食事などの介助を行う「居宅介護」や、保護者が病気の場合などに、そのお子さんが施設に短期間入所し、入浴、排せつ、食事などの介護を受ける「短期入所」などのサービスがある。

ここでは、こうした福祉サービスがどのように利活用されているのかを分析している。

1 居宅介護の利用状況について

居宅介護の利用状況については、当該サービスの内容を知っているか、また、現在、居宅介護を利用しているかを問う設問であったが、図7-1「居宅介護の利用状況」のとおりであり、「サービスの内容は知らないし、利用もしていない。」とする回答が59%（77人）と最も多かった。

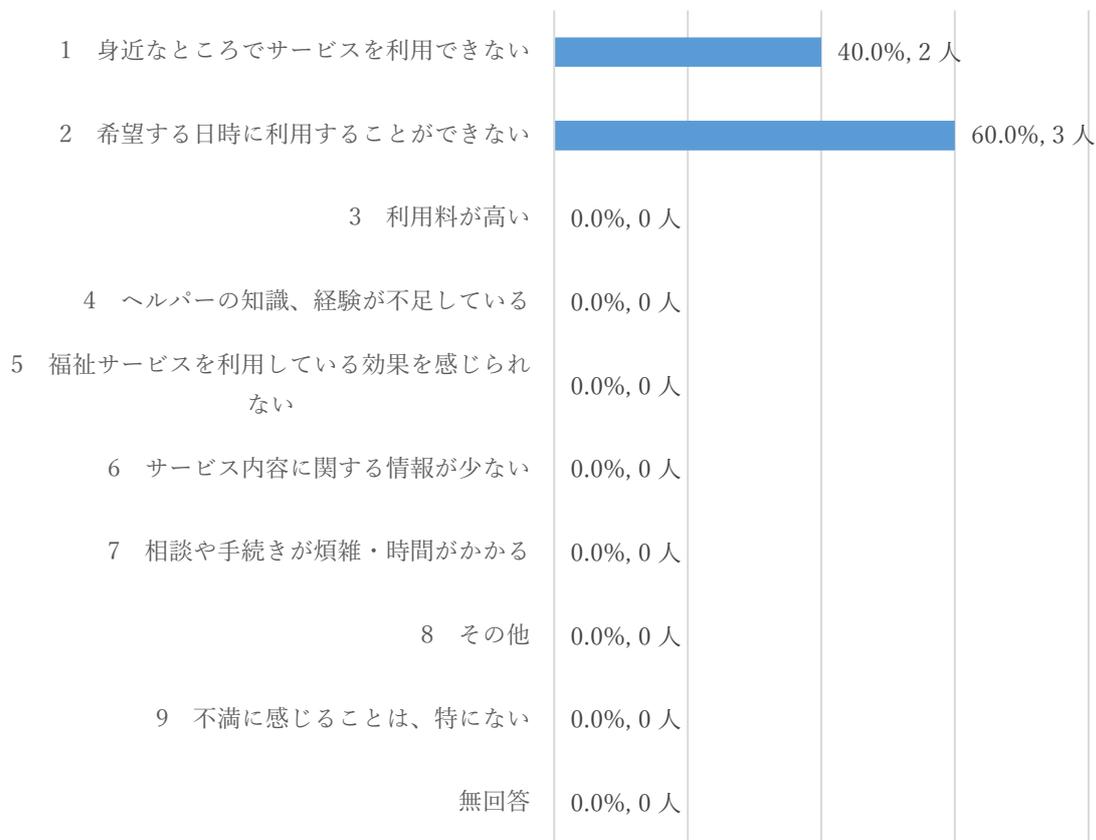
図7-1 「居宅介護の利用状況」



2 居宅介護の利用に関する不満

居宅介護の利用に関する不満については、居宅介護を利用していると回答した方を対象に居宅介護を利用するに当たって不満と感じる点を問う設問であったが、図7-2「居宅介護の利用に関する不満」のとおりであった。「希望する日時に利用することができない」とする回答が60.0%（3人）と最も多かった。また、「身近なところでサービスを利用できない」とする回答が40.0%（2人）と多かった。全体的に居宅介護サービスを利用している方が少ないため、今後も定期的に調査、分析を行っていく必要がある。

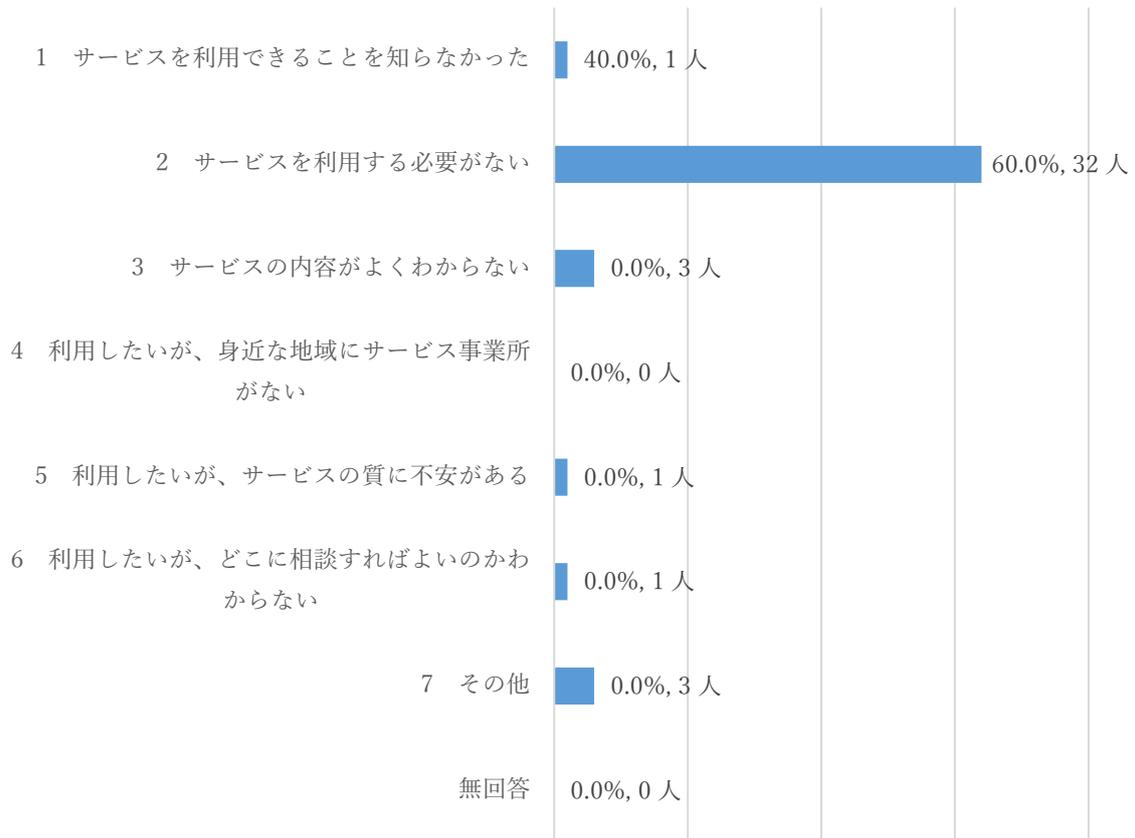
図7-2 「居宅介護の利用に関する不満」 複数回答



3 居宅介護を利用しない理由

居宅介護を利用しない理由については、居宅介護を利用していないと回答した方を対象に、その理由を問う設問であったが、図7-3「居宅介護を利用しない理由」のとおりであった。「サービスを利用する必要がない」とする回答が60.0%（32人）と最も多かった。

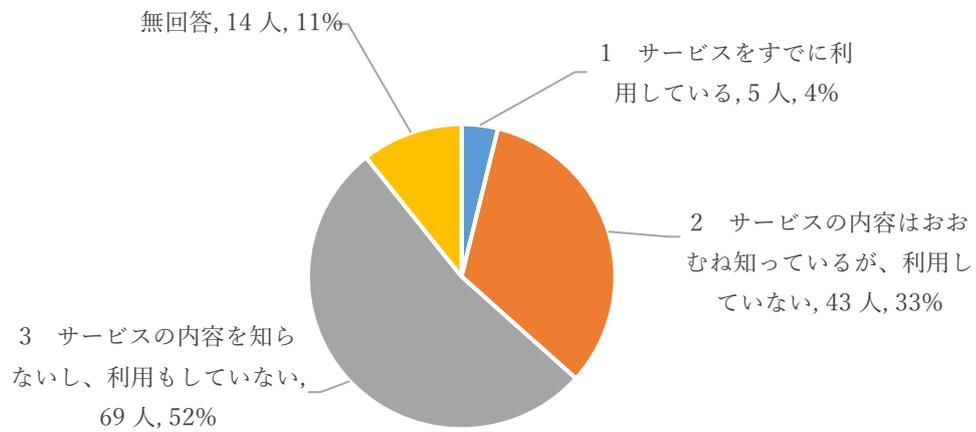
図7-3 「居宅介護を利用しない理由」



4 短期入所の利用状況について

短期入所の利用状況については、当該サービスの内容を知っているか、また、現在、短期入所を利用しているかを問う設問であったが、図7-4「短期入所の利用状況」のとおりであり、「サービスの内容を知らないし、利用もしていない。」とする回答が52%（69人）と最も多かった。

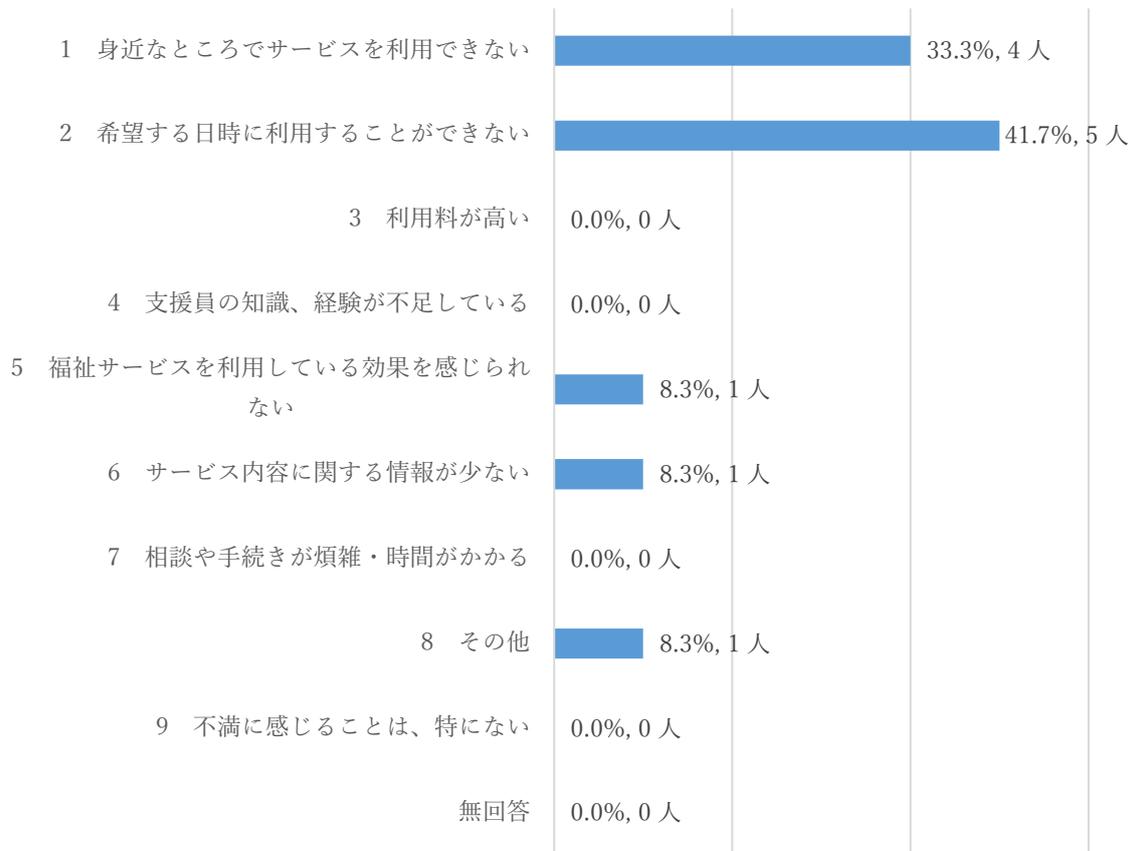
図7-4「短期入所の利用状況」



5 短期入所の利用に関する不満

短期入所の利用に関する不満については、短期入所を利用していると回答した方を対象に短期入所を利用するにあたって不満とを感じる点を問う設問であったが、図7-5「短期入所の利用に関する不満」のとおりであり、「希望する日時に利用することができない」とする回答が41.7%（5人）と最も多く、次いで「身近なところでサービスを利用できない」とする回答が33.3%（4人）と多かった。

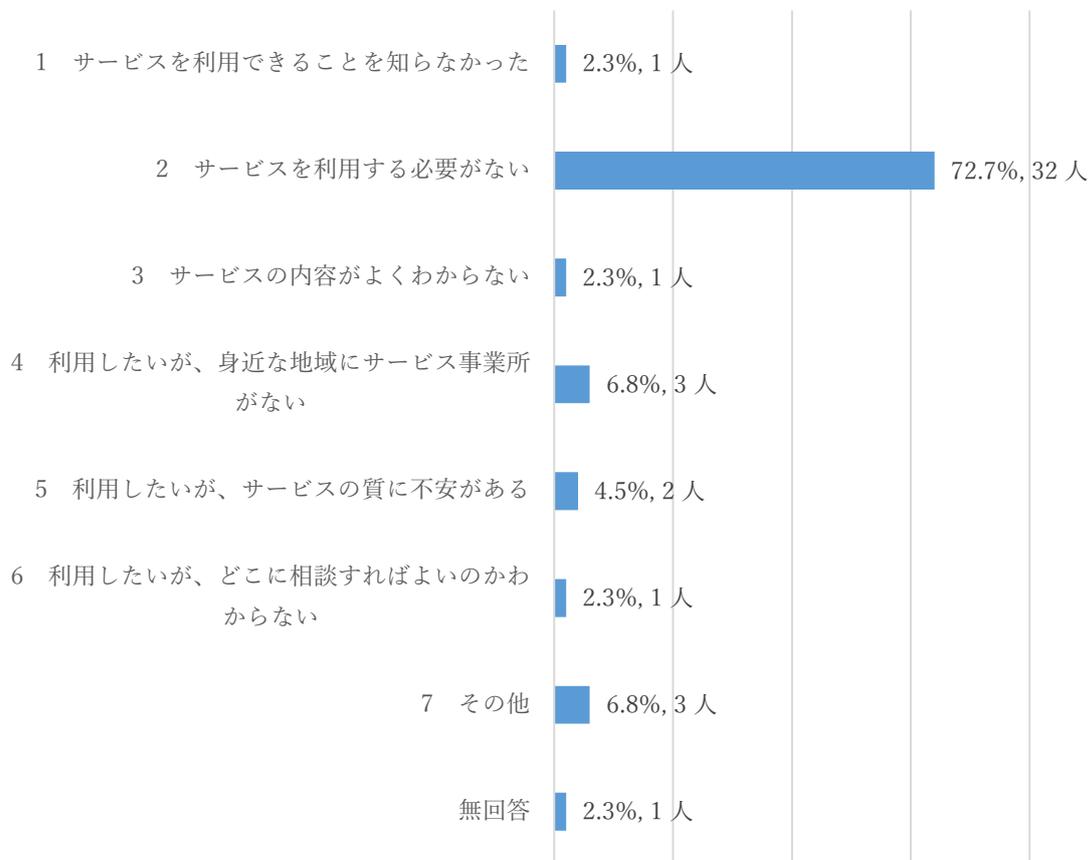
図7-5 「短期入所の利用に関する不満」 複数回答



6 短期入所を利用しない理由

短期入所を利用しない理由については、短期入所を利用していないと回答した方を対象に、その理由を問う設問であったが、図7-6「短期入所を利用しない理由」のとおりであった。「サービスを利用する必要がない」とする回答が72.7%（32人）と最も多く、次いで「利用したいが、身近な地域にサービス事業所がない」とする回答と「その他」とする回答が同率6.8%（3人）と多かった。「その他」と回答したその具体的な記載内容としては、【短期入所を利用しない理由（記載内容）】のとおりである。

図7-6 「短期入所を利用しない理由」



【短期入所を利用しない理由（記載内容）】

- ・ショートステイ、コロナ禍で緊急度が高いケースでないと受け入れてもらえない点が不満
- ・利用出来る施設を増やしてほしい。
- ・一人ひとりの事を考え、その人に合った心のある（気持ちがある）サービスをお願いします。

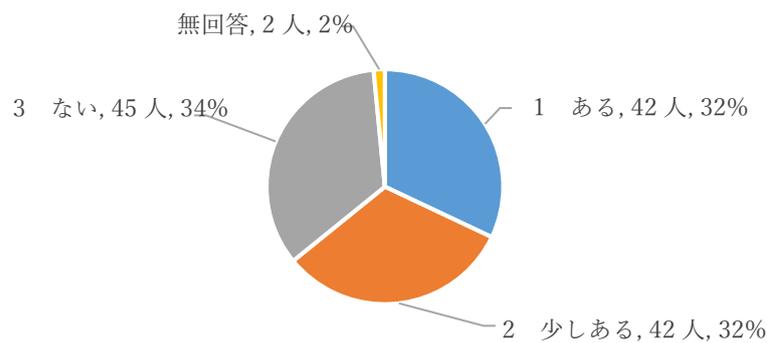
7 権利擁護について

ここでは、権利擁護について、障がいによる差別の現状と差別解消のためにはどのような方策が必要であるのか、また、障害者差別解消法や成年後見制度への理解が進んでいるかを分析している。

1 障がいを事由とした差別

障がいを事由とした差別については、保護者や子どもが、子どもに障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをしたことがあるかを問う設問であったが、図8-1「障がいを事由とした差別」のとおりであった。「ない」とする回答が34%（45人）と最も多かった。なお、「ある」「少しある」とする回答の合計が64%（84人）と高い比率で差別を受けたり、いやな思いをした経験があるという結果であった。

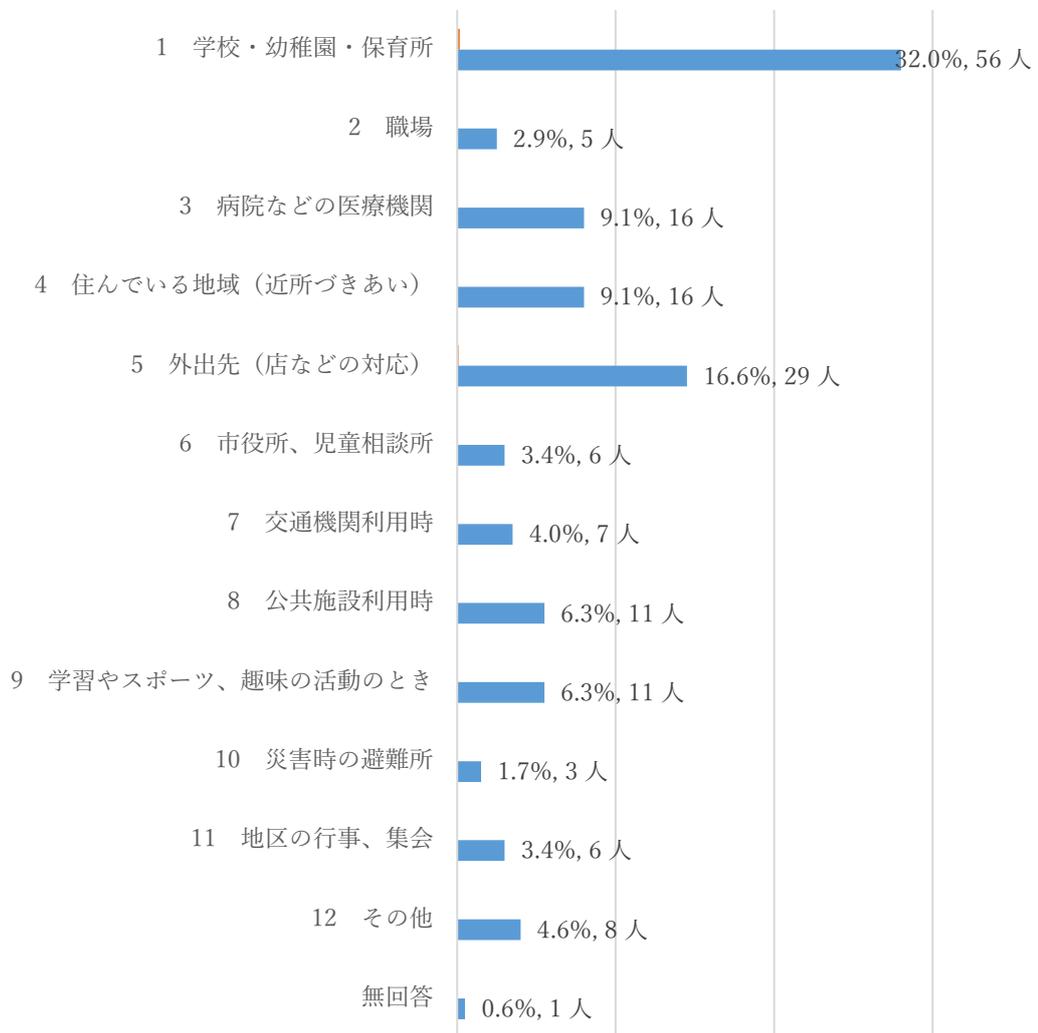
図8-1 「障がいを事由とした差別」



2 差別を受けたり、いやな思いをした場所

差別を受けたり、いやな思いをした場所については、保護者や子どもが、子どもに障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをしたことが「ある」「少しある」と回答した方を対象に、どのような場所において差別を受けたり、いやな思いをしたのかを問う設問であったが、結果は、図8-2「差別を受けたり、いやな思いをした場所」のとおりであった。「学校・幼稚園・保育所」とする回答が、32.0% (56人) と最も多かった。

図8-2「差別を受けたり、いやな思いをした場所」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析】

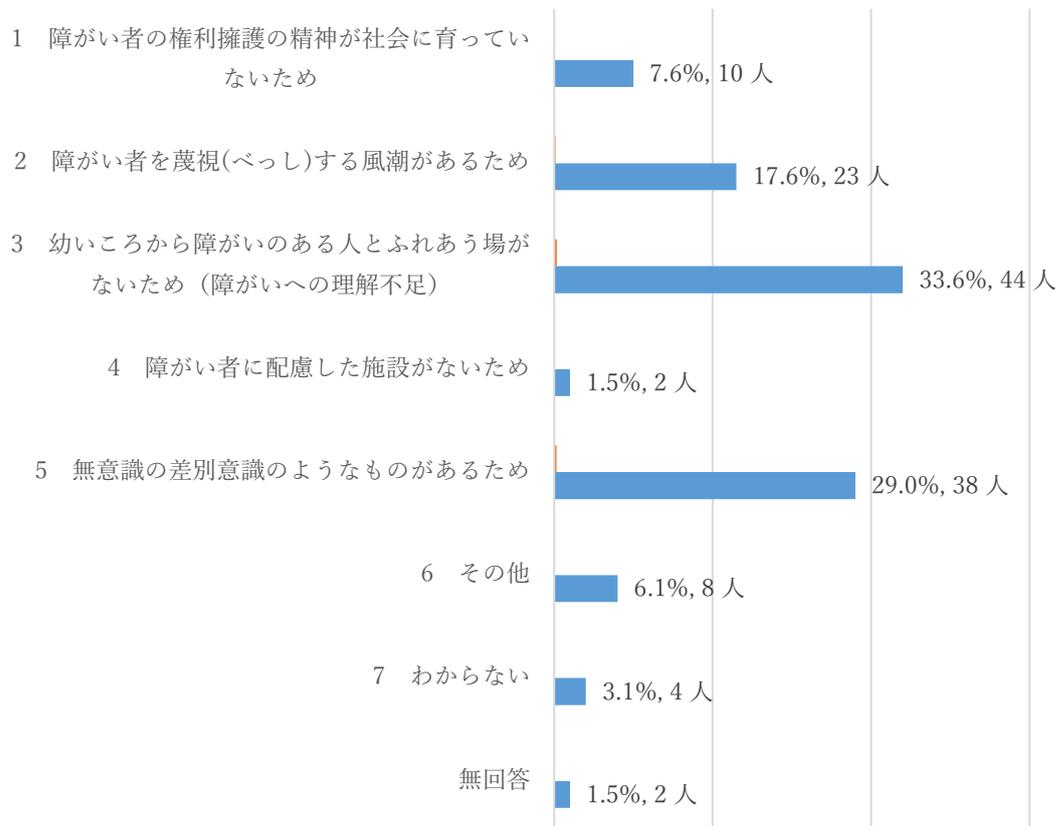
	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
がっこう・ようちえん・ほいくしよ 学校・幼稚園・保育所	6	25.0%	43	33.1%	1	14.3%	5	1
しょくば 職場	1	4.2%	3	2.3%	0	0.0%	1	0
びやういん 病院などの医療機関	3	12.5%	11	8.5%	2	28.6%	0	0
す 住んでいる地域(近所づ きあい)	1	4.2%	14	10.8%	0	0.0%	1	0
がいしゅつさき 外出先(店などの対応)	4	16.7%	21	16.2%	2	28.6%	2	0
しやくしよ 市役所、児童相談所	3	12.5%	2	1.5%	1	14.3%	0	0
こうつうきかんり 交通機関利用時	1	4.2%	5	3.8%	0	0.0%	1	0
こうきょうしせつ 公共施設利用時	2	8.3%	8	6.2%	0	0.0%	1	0
がくしゅう 学習やスポーツ、趣味 の活動のとき	0	0.0%	10	7.7%	0	0.0%	1	0
さいがいじ 災害時の避難所	0	0.0%	3	2.3%	0	0.0%	0	0
ちく 地区の行事、集会	0	0.0%	5	3.8%	0	0.0%	1	0
その他	2	8.3%	5	3.8%	1	14.3%	0	0
な 無回答	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
ごうけい 合計	24	100.0%	130	100.0%	7	100.0%	13	1

未就学児、就学児ともに「学校・幼稚園・保育所」とする回答が最も多く、未就学児では、25.0% (6人)、就学児では 33.1% (43人) の結果となった。全体的にみて、就学児の方が、成長にあわせて各所で嫌な思いをしている回答が多かった。

3 障がいに対する差別や偏見が生まれる主な理由

障がいに対する差別や偏見が生まれる主な理由については、差別や偏見が生まれる要因として、どのようなものがあると感じるかを問う設問であったが、図8-3「障がいに対する差別や偏見が生まれる主な理由」のとおりであった。「幼いころから障がいのある人と触れ合う場がないため（障がいへ理解不足）」とする回答が33.6%（44人）と最も多かった。

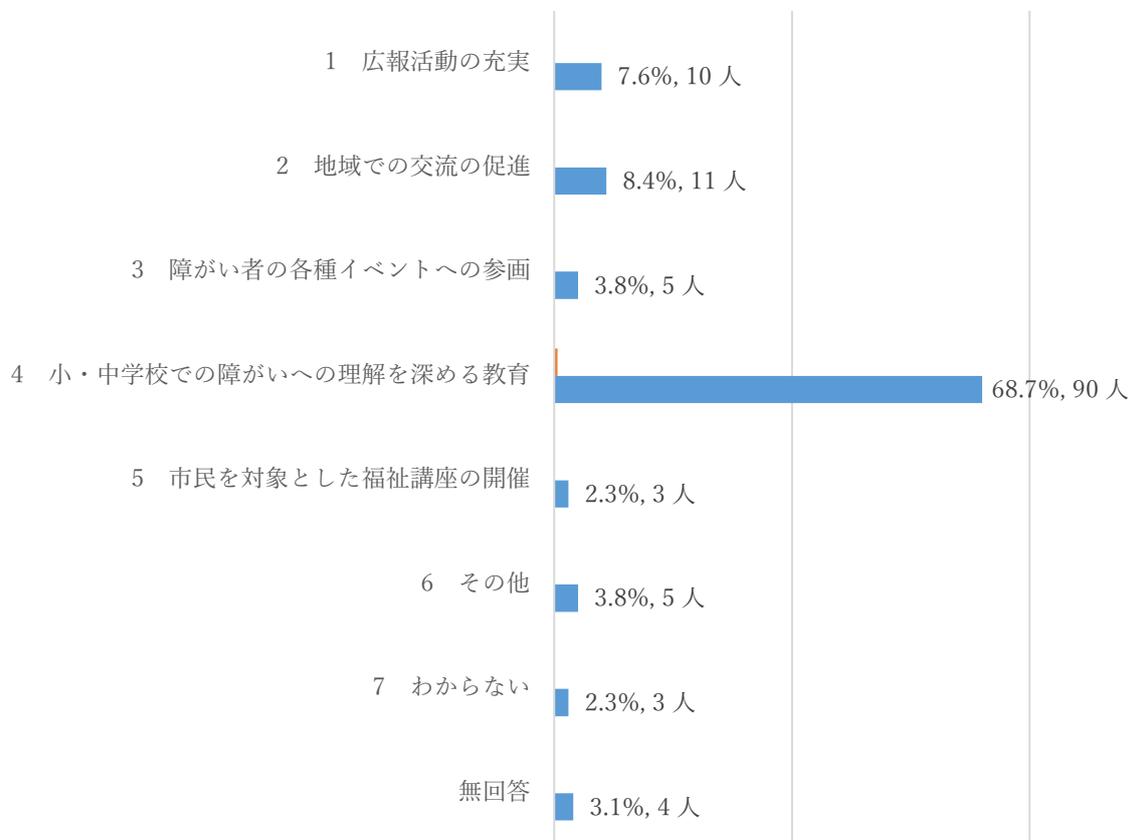
図8-3 「障がいに対する差別や偏見が生まれる主な理由」



4 障がいに対する理解を深めるために必要なこと

障がいに対する理解を深めるために必要なことについては、障がい理解を深めていくためにどのようなことが必要と感じるかを問う設問であったが、図8-4「障がいに対する理解を深めるために必要なこと」のとおりであった。「小・中学校での障がいへの理解を深める教育」とする回答が68.7%（90人）と最も多かった。

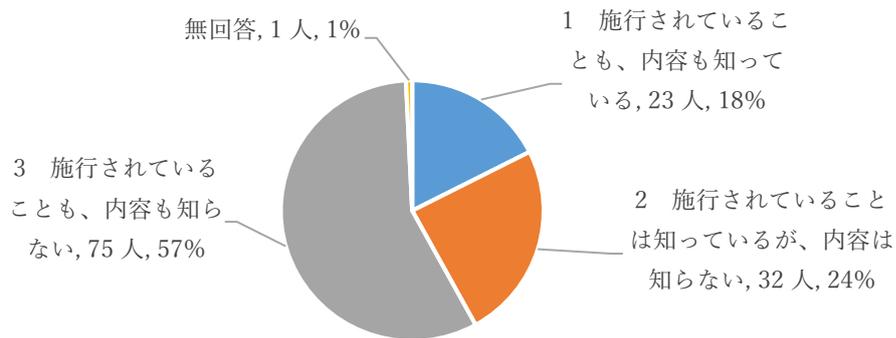
図8-4 「障がいに対する理解を深めるために必要なこと」



5 障害者差別解消法

障害者差別解消法については、同法が平成28年4月から施行されており、その認知度を問う設問であったが、結果は、図8-5「障害者差別解消法」のとおりであった。「施行されていることも、内容も知らない」とする回答が57%（75人）と最も多かった。

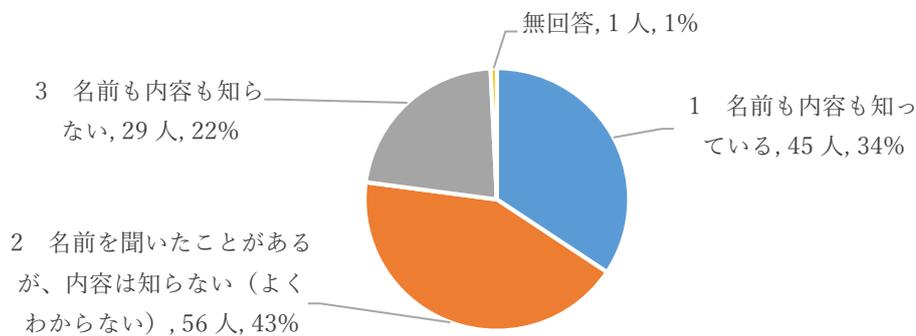
図8-5 「障害者差別解消法」



6 成年後見制度

成年後見制度については、当該制度の認知度を問う設問であったが、図8-6「成年後見制度」のとおりであった。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない（よくわからない）」とする回答が43%（56人）と最も多かった。

図8-6 「成年後見制度」



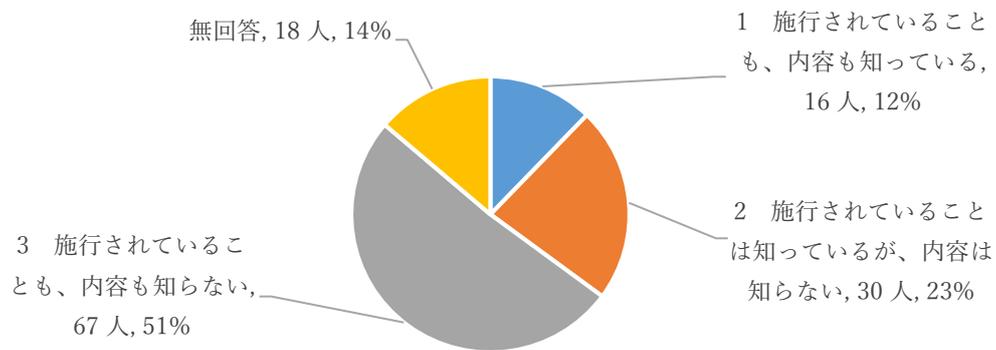
8 医療的ケアを必要とするお子さんについて

ここでは、医療的ケアを必要とする子どもについて、どのような法整備が行われ、制度等の理解が進んでいるかを分析している。

1 医療的ケア児支援法

医療的ケア児支援法については、同法が令和3年9月から施行されており、その認知度を問う設問であったが、結果は、図9-1「医療的ケア児支援法」のとおりであった。「施行されていることも、内容も知らない」とする回答が51%（67人）と最も多かった。

図9-1 「医療的ケア児支援法」



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析①】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
しこう 施行されていることも、 ないよう 内容も知っている	1	4.5%	13	14.1%	1	25.0%	1	0
しこう 施行されていることは 知っているが、内容 は知らない	6	27.3%	20	21.7%	1	25.0%	3	0
しこう 施行されていることも、 ないよう 内容も知らない	12	54.5%	49	53.3%	2	50.0%	3	1
な 無回答	3	13.6%	10	10.9%	0	0.0%	3	2
ごうけい 合計	22	100.0%	92	100.0%	4	100.0%	10	3

未就学児、就学児、所属なしともに「施行されていることも、内容も知らない」とする回答が多く、未就学児では54.5%（12人）、就学児では53.3%（49人）、所属なしでは50.0%（2人）であった。いずれも割合は5割を占める結果となった。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析②】

	てちょう 手帳あり			てちょう 手帳なし		
	しんたい 身体 しょうがいしゃ 障害者 てちょう 手帳	りょういく 療育 てちょう 手帳	せいしん 精神 しょうがいしゃ 障害者 ほけんふくし 保健福祉 てちょう 手帳	しんたい 身体 しょうがいしゃ 障害者 てちょう 手帳	りょういく 療育 てちょう 手帳	せいしん 精神 しょうがいしゃ 障害者 ほけんふくし 保健福祉 てちょう 手帳
しこう 施行されていることも、 ないよう 内容も知っている	7	7	0	5	7	9
しこう 施行されていることは 知っているが、内容 は知らない	8	19	0	11	11	16
しこう 施行されていることも、 ないよう 内容も知らない	12	35	5	31	28	38
な 無回答	2	12	0	10	5	11
ごうけい 合計	29	73	5	57	51	74

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳全てにおいて、「施行されていることも、内容も知らない」とする回答が最も多かった。また、手帳をもっている方の中では、療育手帳所持者の回答数が多く、手帳をもっていない方の中では、精神障害者保健福祉手帳所持者の回答数が多かった。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析③】

	医療的ケアを受けている		医療的ケアを受けていない		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
施行されていることも、内容も知っている	6	35.3%	9	8.2%	1	25.0%
施行されていることは知っているが、内容は知らない	6	35.3%	24	21.8%	0	0.0%
施行されていることも、内容も知らない	5	29.4%	61	55.5%	1	25.0%
無回答	0	0.0%	16	14.5%	2	50.0%
合計	17	100.0%	110	100.0%	4	100.0%

医療的ケアの受診状況別でみると、医療的ケアを受けている方は、「施行されていることも、内容も知っている」とする回答と、「施行されていることは知っているが、内容は知らない」とする回答が同率で多かった。また、医療的ケアを受けていない方は、「施行されていることも、内容も知らない」とする回答が最も多かった。

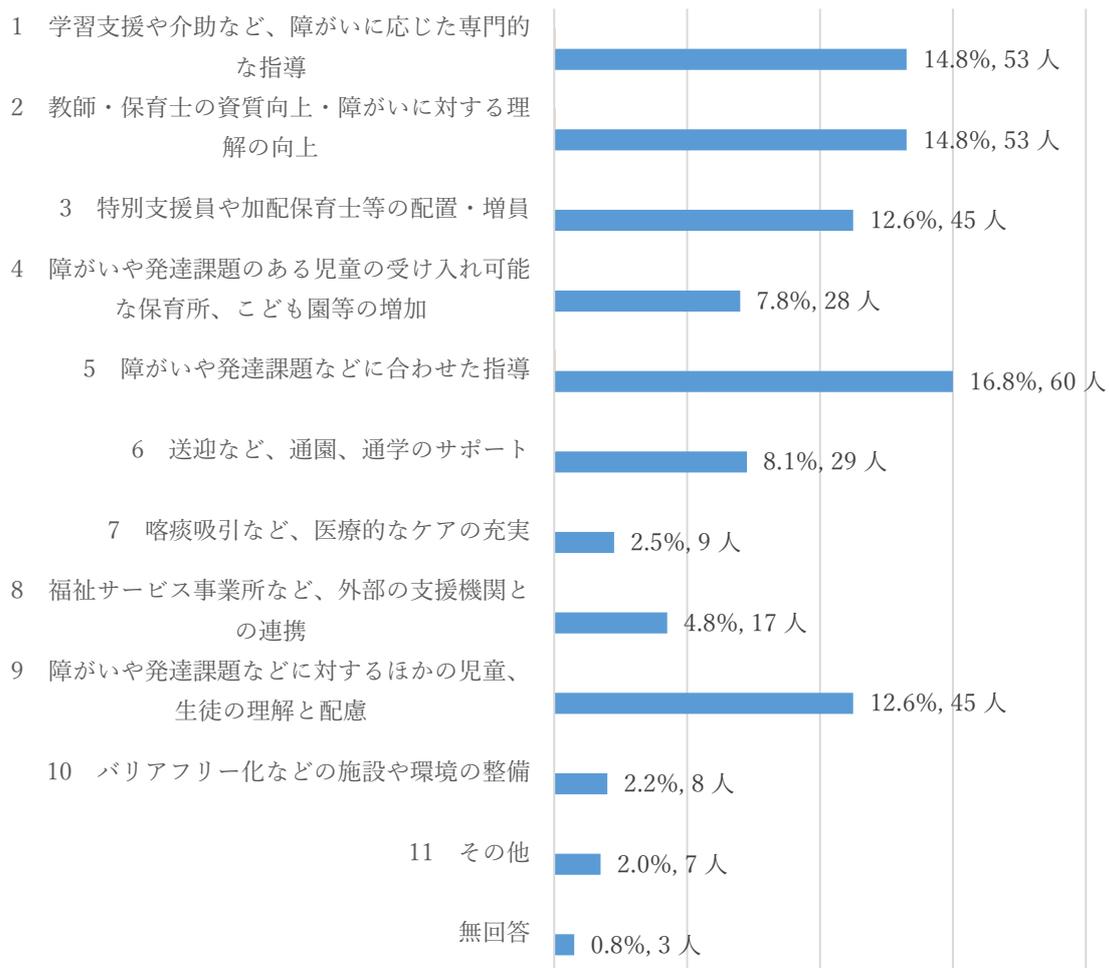
9 育成環境について

ここでは、子どもの育成環境等の充実や家族支援について、どのような施策や支援の充実が必要なのか、また、障がい福祉施策についての満足度について分析している。

1 園や学校に望むこと

園や学校に望むことについては、園や学校に対して特に充実を望むことを問う設問であったが、結果、図10-1「園や学校に望むこと」のとおりであった。「5 障がいや発達課題などに合わせた指導」とする回答が16.8%（60人）と最も多く、次に、「1 学習支援や介助など、障がいに応じた専門的な指導」と「教師・保育士の資質向上・障害に対する理解の向上」が同率14.8%（53人）で多かった。

図10-1 「園や学校に望むこと」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析①】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
がくしゅうしえん かいじょ しょう 学習支援や介助など、障 がいに応じた専門的な しどう 指導	9	13.6%	39	15.7%	1	9.1%	4	0
きょうし ほいくし ししつこうじょう 教師・保育士の資質向上・ しょう しょう 障がいに対する理解の こうじょう 向上	12	18.2%	36	14.5%	1	9.1%	4	0
とくべつしえんいん かはい 特別支援員 や 加配 ほいくしどう はいち ぞういん 保育士等の配置・増員	13	19.7%	24	9.6%	2	18.2%	6	0
しょう しょう 障がいや発達課題のある じどう うけい かのう 児童の受け入れ可能な ほいくしよ えんどう ぞうか 保育所、こども園等の増加	7	10.6%	18	7.2%	1	9.1%	2	0
しょう しょう 障がいや発達課題など にあ に合わせた指導	11	16.7%	41	16.5%	2	18.2%	5	1
そうげい しょう 送迎など、通園、通学の サポート	3	4.5%	24	9.6%	1	9.1%	1	0
かくたんきゅういん いりようてき 喀痰吸引など、医療的 じゅうじつ なケアの充実	1	1.5%	7	2.8%	0	0.0%	1	0
ふくし じぎょうしよ 福祉サービス事業所など、 がいぶ しえん かん れんけい 外部の支援機関との連携	2	3.0%	14	5.6%	0	0.0%	1	0
しょう しょう 障がいや発達課題などに たい じどう 対するほかの児童、生徒の りかい はいりよ 理解と配慮	7	10.6%	34	13.7%	2	18.2%	1	1
バリアフリー化などの しせつ かんきょう せいび 施設や環境の整備	1	1.5%	6	2.4%	0	0.0%	1	0
その他	0	0.0%	5	2.0%	1	9.1%	1	0
な かいとう 無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	2
ごうはい 合計	66	100.0%	249	100.0%	11	100.0%	27	4

未就学児・就学児別で見ると、未就学児では、「特別支援員や加配保育士等の配置・増員」とする回答が19.7%（13人）で最も多く、就学児では、「障がいや発達課題などに合わせた指導」とする回答が、16.5%（41人）で最も多かった。

【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析②】

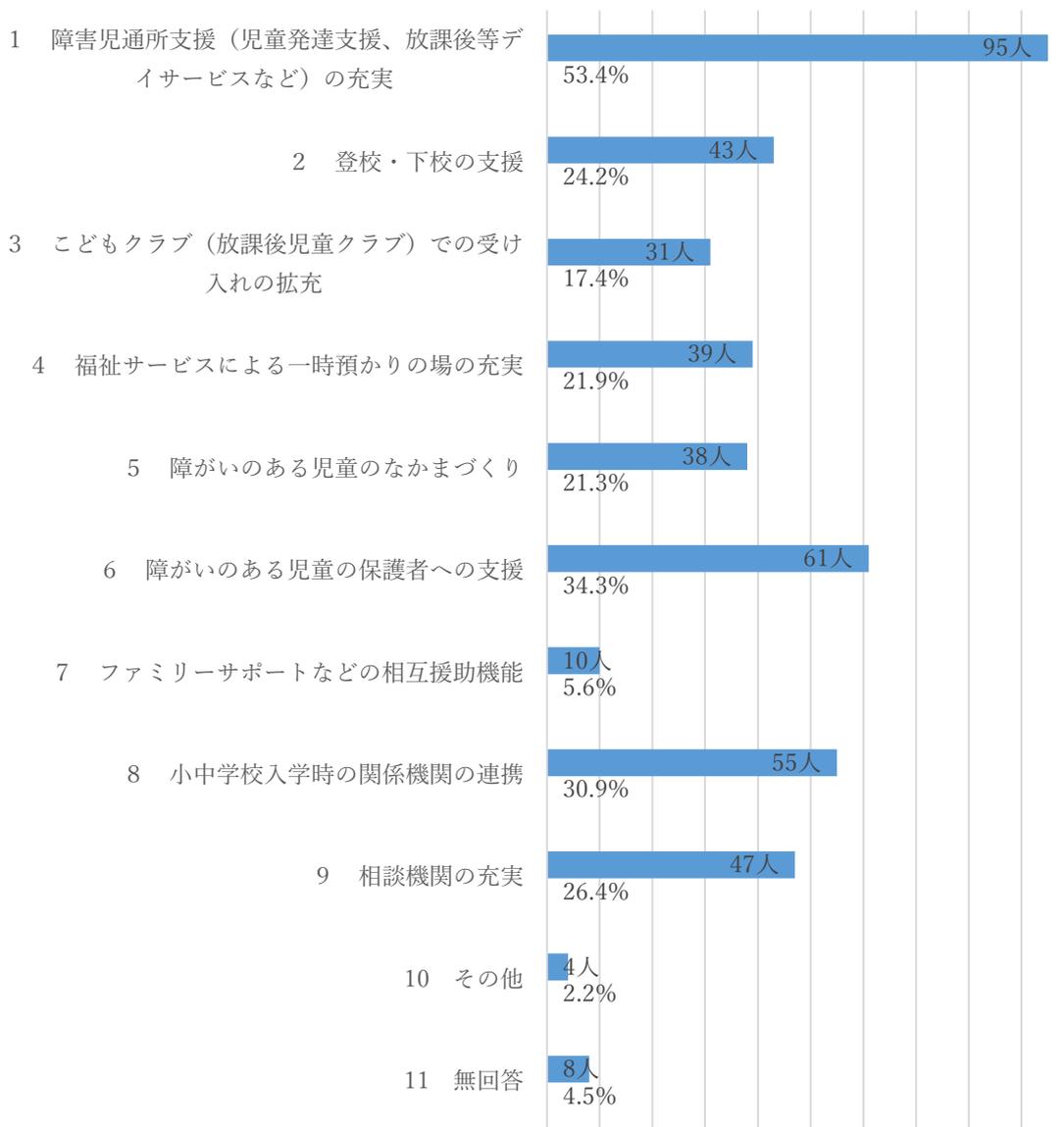
	手帳あり			手帳なし		
	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神 障害者 保健福祉 手帳
学習支援や介助など、障がいに応じた専門的な指導	14	28	4	22	21	31
教師・保育士の資質向上・障がいに対する理解の向上	10	22	2	30	28	33
特別支援員や加配保育士等の配置・増員	11	24	2	20	18	27
障がいや発達課題のある児童の受け入れ可能な保育所、こども園等の増加	5	16	1	9	11	11
障がいや発達課題などに合わせた指導	9	34	4	32	24	37
送迎など、通園、通学のサポート	8	19	1	7	7	12
喀痰吸引など、医療的なケアの充実	6	3	0	1	4	5
福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携	1	12	0	9	5	10
障がいや発達課題などに對するほかの児童、生徒の理解と配慮	4	24	1	24	18	26
バリアフリー化などの施設や環境の整備	5	4	0	1	4	3
その他	4	3	0	2	4	6
無回答	0	2	0	2	1	2
合計	77	191	15	159	145	203

身体障害者手帳所持者では、「学習支援や介助など、障がいに応じた専門的な指導」とする回答が14人で最も多く、療育手帳所持者では、「障がいや発達課題などに合わせた指導」とする回答が34人で最も多かった。精神障害者保健福祉手帳所持者では、「学習支援や介助など、障がいに応じた専門的な指導」と「障がいや発達課題などに合わせた指導」とする回答が同じ回答数で4人という結果となった。

2 保育所等や学校以外の中で充実を望むこと

「保育所等や学校以外の中で充実を望むこと」については、園や学校に対して特に充実を望むことを聞き設問であったが、図10-2「保育所等や学校以外の中で充実を望むこと」のとおりであり、「1 障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の充実」とする回答が53.4%（95人）と最も多かった。

図10-2 「保育所等や学校以外の中で充実を望むこと」 複数回答

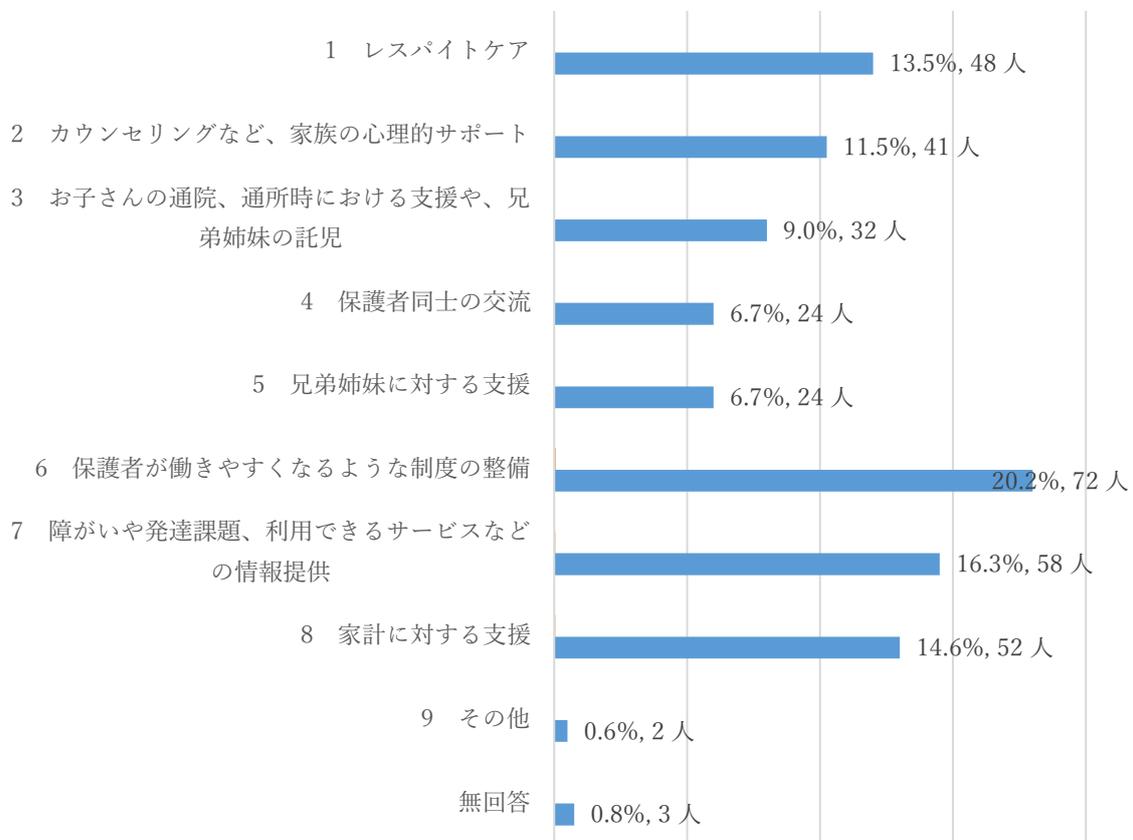


3 家族への支援

家族への支援については、支援が必要な子どもの家族に対して、どのような支援が大切だ
と思うかを問う設問であったが、図10-3「家族への支援」のとおりであった。「6 保護者
が働きやすくなるような制度の整備」とする回答が20.2% (72人) と最も多く、次いで、
「7

障がいや発達課題、利用できるサービスなどの情報提供」とする回答が16.3% (58人)
と回答が多かった。

図10-3 「家族への支援」 複数回答



【アンケート調査結果におけるクロスデータ分析①】

	みしゅうがくじ 未就学児		しゅうがくじ 就学児		しよぞくな 所属無し		その他	みかいとう 未回答
	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	かいとうすう 回答数	かいとうすう 回答数
レスパイトケア	6	10.9%	40	15.6%	0	0.0%	2	0
カウンセリングなど、 かぞく しんりてき 家族の心理的サポート	8	14.5%	27	10.5%	0	0.0%	5	1
お子さんの通院、通所時 における支援や、兄弟 姉妹の託児	7	12.7%	19	7.4%	2	20.0%	3	1
保護者同士の交流	3	5.5%	18	7.0%	1	10.0%	2	0
兄弟姉妹に対する支援	2	3.6%	18	7.0%	3	30.0%	0	1
保護者が働きやすくな るような制度の整備	13	23.6%	49	19.1%	2	20.0%	8	0
障がいや発達課題、 利用できるサービスな どの情報提供	9	16.4%	43	16.8%	1	10.0%	4	1
家計に対する支援	7	12.7%	38	14.8%	1	10.0%	5	1
その他	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	0	0
無回答	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	0	1
合計	55	100.0%	256	100.0%	10	100.0%	29	6

未就学児・就学児別でみると、未就学児、就学児ともに、「保護者が働きやすくなるような制度の整備」とする回答が最も多く、未就学児は23.6%（13人）、就学児は19.1%（49人）という結果となった。一方、所属なし児は、「兄弟姉妹に対する支援」とする回答が30.0%（3人）で多かった。

4 障がい福祉施策の満足感

障がい福祉施策の満足感については、現在の会津若松市の障がい福祉施策について満足しているかを問う設問であったが、図10-4「障がい福祉施策の満足感」のとおりであり、「ある程度満足」とする回答が43.0%（56人）と最も多かった。

図10-4 「障がい福祉施策の満足感」

